

生態系保全アクションプラン 平成23年度の進捗状況及び平成24年度実施計画(案) (島毎の整理表)

(1)父島列島(1/2)

凡 例：環境省事業 林野庁事業 東京都事業 小笠原村事業 その他【共同実施事業等】

島名	対策の方向性	取組の項目	推薦後の短期目標 (～H24年度末)	対策の内容	平成22年度	平成23年度	平成24年度予定
父島	①乾性低木林の保全及びムニンヒメツバキ林の保全	ノヤギ駆除	○エリア排除完了	○柵内におけるノヤギの駆除を実施。【環境省】	ノヤギ柵竣工～柵内排除開始	柵設置完了、柵内排除継続 【環1】	維持管理、柵内排除継続
			○駆除着手・継続	○左記の取組を継続。【小笠原村】 ○平成21年度から各機関連携のもと、戦略的に着手(全域)。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	排除計画策定、排除	排除継続 【都1】	排除継続
		外来植物全般	－	※外来植物全般に関するものをまとめて右に記載		東平で外来植物の追加駆除 【環11】	中長期計画の作成 【林2】
		モクマオウ・リュウキュウマツ駆除	○エリア排除継続・拡大	○父島東平において、エリア排除を目指してモクマオウ等の駆除等を実施。また、夜明平において、NPO等と整備協定を締結しモクマオウ等の駆除の推進を継続。【NPO等、林野庁】	東平で駆除継続 東部地区で駆除、駆除前後モニタリング等	東平で駆除継続 【林11】 東部地区で駆除継続 【林3】	駆除継続 駆除継続
					NPO等との協働駆除	ボランティアによる駆除 【林6】	駆除継続
		アカギ駆除	○エリア排除継続	○エリア排除完了以降は萌芽処理等を実施(東平アカガシラカラスバトサンクチュアリ)。【NPO等、林野庁】	東平で駆除継続 東部地区で駆除、駆除前後モニタリング等 NPO等との協働駆除	東部地区で駆除継続 【林3】 ボランティアによる駆除 【林6】 都有地での駆除計画の策定 【都3】	駆除継続 国有林に隣接する都有地での駆除
		キバンジロウ駆除	○エリア排除継続	○各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	東部地区で分布調査等 NPO等との協働駆除		
		ガジュマル駆除	○エリア排除着手	○各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	東部地区で分布調査等		
		ギンネム駆除	○エリア排除着手	○各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	東部地区で分布調査等 NPO等との協働駆除	都有地での駆除計画の策定、試験駆除の実施 【都3】	都有地での駆除
		希少植物種の保護	○保護継続	○東平に生育する希少植物種について、保護ネット設置箇所の巡視継続。【環境省】	巡視等の継続 生育状況調査、域外系統保存等	巡視等の継続 【林9】 NPO等との協働 【林7】 生育状況調査等継続 【環15】	巡視記録のデータベース化等 活動の継続 生育状況調査等継続
	②アカガシラカラスバトの生息地の保全	ノネコ排除	○エリア排除完了	○東平の柵内におけるネコの排除を完了。【環境省】 ○東平における柵及び捕獲の効果を検証の上、島内の排除策を検討。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	排除継続、モニタリング 緊急捕獲の実施	ノネコ排除継続 【環1】 父島山部での捕獲を実施【林8、民】	排除継続 活動の継続
			○排除継続	○南部重要地域(既知のアカガシラカラスバト繁殖地周辺)を中心とする地域からネコの排除を実施、父島島内の生息密度の低下。【環境省】	捕獲継続 【民1】		
		アカガシラカラスバト生息状況調査	(アクションプランに記載なし)		生息状況調査継続 サンクチュアリの維持 生息状況調査等、環境条件地理的情報収	NPO等との協働 【林7】、生息状況調査の継続 【林11】 サンクチュアリの維持 【林11】 生息状況調査の継続 【環12】	活動の継続 活動の継続 生息状況調査の継続
	③陸産貝類の生息地の保全	ニューギニアヤリガタリクウズムシ駆除	○エリア防衛継続	○陸産貝類生息地(巽崎・島山・夜明山等)にサンクチュアリを設定、エリア防衛対策を実施。【環境省】	屋外防除エリア設置 島内未侵入地域への拡散防止の継続	屋外防除エリアの維持管理 【環9】 島内未侵入地域への拡散防止の継続 【環9】	左記の継続 拡散防止の継続
		陸産貝類の保全			室内飼育の開始	室内飼育の継続、再導入に向けた検討 【環9】	左記の継続
		クマネズミ駆除	(中長期的に対応)				
	④オガサワラオオコウモリの生息地の保全	オガサワラオオコウモリ保全対策	○保護対策の拡充 ○保護と食害防除の両立	○生息地について保護担保措置の検討も含めて対策を拡充。【環境省・林野庁・文化庁・東京都・小笠原村】 ○保護に配慮した食害防除法の開発・試行【文化庁・東京都・小笠原村】	生息状況調査継続 保護増殖事業計画策定 食害防除試験の継続	生息状況調査の継続 【林11】 都有地での飛来調査、植生調査【都12】 生息数調査、農業被害実態調査等 【環13】 食害防除施設の試行 【村2・文・東】	調査の継続 調査の継続 調査の継続 食害防除施設の設置支援
	⑤固有昆虫類の生息地の保全	グリーンアノール駆除	(中長期的に対応)				
		モクマオウ・リュウキュウマツ駆除	○エリア排除継続・拡大	※再掲			
	⑥その他の対策	グリーンアノール駆除	○エリア排除(拡散防止)継続	○父島二見港周辺において、属島への拡散を防止するため、駆除、監視、普及啓発を継続。【環境省】	捕獲の継続	重点防除区域での捕獲の継続 【環6】	捕獲の継続
		オオヒキガエル駆除	○エリア排除(拡散防止)継続	○父島二見港周辺において、属島への拡散を防止するため、駆除、監視、普及啓発を継続。【環境省】	捕獲の継続	重点防除区域での捕獲の継続 【環6】	捕獲の継続
		ノネコ排除	○条例の適正な運用による管理の徹底	○飼いネコ・ノラネコ対策を実施(95以上の不妊去勢率達成・60%以上のマイクロチップ挿入、条例改正)。【小笠原村・小笠原ネコに関する連絡会議・東京都獣医師会・NPO】	派遣診療要請	派遣診療の要請を継続 【民2】 農地での捕獲を実施 【民1】	左記の継続 必要に応じ継続
		ニューギニアヤリガタリクウズムシ拡散防止	○拡散防止の継続・普及啓発	○父島二見港周辺において、属島への拡散を防止するため、駆除、監視、普及啓発を継続。【東京都】	普及啓発、指導の実施	普及啓発、指導の継続 【都2】	活動の継続

:現時点で概ね完了 :H24年度末時点までに完了予定 赤字:アクションプラン修正箇所

(1)父島列島(2/2)

凡 例：環境省事業 林野庁事業 東京都事業 小笠原村事業 その他【共同実施事業等】

島名	対策の方向性	取組の項目	推薦後の短期目標 (～H24年度末)	対策の内容	事業進捗		
					平成22年度	平成23年度	平成24年度予定
兄島	①乾性低木林の保全	ノヤギ駆除	－	－		柵の撤去【都1】	－
		クマネズミ駆除	○根絶完了	○周辺属島も含めて根絶を完了。【環境省】	駆除後のモニタリング	モニタリングの継続【環5】	モニタリングの継続等
		モクマオウ等駆除	○エリア排除完了・拡大	○台地上緩傾斜地のエリア排除を目指して、駆除を実施。【林野庁】	モニタリング継続	モニタリングの継続、追加枯殺【環11】	モニタリングの継続 中長期計画の作成【林2】
					駆除、駆除前後モニタリング等継続	駆除継続【林3】	駆除継続
		ギンネム駆除	○エリア排除完了	○平成22年度着手、平成24年度までに台地上緩傾斜地のエリア排除を目指して、駆除を実施。【林野庁】	駆除、駆除前後モニタリング等継続	駆除継続【林3】	中長期計画の作成【林2】 駆除継続
					モニタリング継続	モニタリングの継続、追加枯殺【環11】	モニタリングの継続
		シチヘンゲ駆除	○エリア排除完了	○平成22年度から台地上緩傾斜地において、モクマオウ等の駆除と併せ小面積の試験的な駆除とその後のモニタリングを実施。【林野庁】 ○ボランティア・NPO・各機関連携のもと滝之浦の駆除を実施。	駆除の実施 駆除試験、モニタリング【環	ボランティアによる駆除【林6】 駆除継続【林3】	中長期計画の作成【林2】 駆除継続
		希少植物種の保護	(アクションプランに記載なし)		生育状況調査、域外系統保存等	生育状況調査等継続【環15】	生育状況調査等継続
	②陸産貝類の生息地の保全	クマネズミ駆除	○根絶完了	※再掲	※再掲		
	③アカガシラカラスノバトの生息地の保全	クマネズミ駆除	○根絶完了	※再掲	※再掲		
弟島	①ムニンヒメツバキ林の保全	アカギ駆除	－	－			
		ノヤギ駆除	○根絶完了	○根絶を目指して駆除を継続。【東京都】	排除継続【都1】	残存個体の確認調査【都1】	－
		クマネズミ駆除	○根絶完了	○周辺属島も含めて根絶を完了。【環境省】	駆除後のモニタリング	南部での個体数管理の実施【環5】	モニタリング継続、再駆除検討等
		モクマオウ・ギンネム等駆除	○エリア排除着手	○各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】 ○国有林に生育する外来種(モクマオウ等、ギンネム)について、分布状況の調査等を行うとともに兄島等におけるギンネム等の駆除結果に基づきエリア排除に向けた検討を行い、22年度から着手。【林野庁】	駆除、駆除前後モニタリング等継続 モニタリングの継続 シュロガヤツリ試験駆除	駆除継続【林3】 モニタリングの継続、追加枯殺【環11】 シュロガヤツリ駆除継続【環14】	中長期計画の作成【林2】 駆除継続 モニタリングの継続等 駆除継続等
		ウシガエル駆除	－	－	残存個体の確認調査	残存個体の確認調査継続【環8】	残存個体の確認調査継続
	②固有トンボ類5種など固有昆虫類の生息地の保全	ノブタ駆除	－	－	残存個体の確認調査	残存個体の確認調査継続【環4】	－
		止水環境の回復	○止水環境の整備	○トンボ類等の水生昆虫類のモニタリング、回復を図るための止水環境の整備を継続。【環境省】	人工池の維持管理 調査等の継続【環14】	人工池の維持管理の継続【環8】 調査等の継続	維持管理の継続 調査等の継続
		モクマオウ等駆除	○エリア排除着手	※再掲	※再掲		
		モクマオウ等駆除	○エリア排除着手	※再掲	※再掲		
	③アカガシラカラスノバトの生息地の保全	クマネズミ駆除	○根絶完了	※再掲	※再掲		
		ノネコ排除	○排除継続	○根絶を目指して排除を継続。【環境省】	試験捕獲継続、モニタリング【環3】	残存個体の確認調査継続【環3】	確認調査継続・規模縮小
西島	①固有種等に配慮した生態系管理	クマネズミ駆除	○根絶完了	○根絶を完了。【環境省】	駆除後のモニタリング	モニタリングの継続【環5】	モニタリングの継続等
		モクマオウ・ギンネム駆除	○駆除着手	○各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】 ○国有林については、平成22年度からNPO等と整備協定を締結しモクマオウ等の駆除を推進。【NPO、林野庁】	NPO等との協働駆除【林7】	駆除の実施(他、リュウキュウマツ含む)【林3】	中長期計画の作成【林2】
		止水環境の回復	(アクションプランに記載なし)			NPO等との協働 維持管理【林7】	
東島	①海鳥類の繁殖地の保全	クマネズミ駆除	○根絶完了	－	駆除後のモニタリング	モニタリングの継続【環5】	モニタリングの継続等
		海鳥類の繁殖地の保全	(アクションプランに記載なし)			NPO等との協働【林7】	活動の継続
	②固有種等に配慮した生態系管理	モクマオウ・ギンネム駆除	○駆除着手	○兄島等におけるギンネム等の駆除結果に基づきエリア排除に向け、試験的な駆除を含めた検討を実施。【林野庁】	駆除前調査	NPO等との協働 駆除方法の検討【林7】 駆除の実施【林3】	中長期計画の作成【林2】 活動の継続 駆除継続
南島	①海鳥類の繁殖地の保全	シンクリノイガ等駆除	○駆除継続	○南島において、侵略性の高い外来植物種の駆除を継続。【東京都、林野庁、小笠原村、NPO】	駆除・モニタリング継続 島民ボランティアによる駆除の実施	駆除・モニタリングの継続【都6、7】 左記の継続【村1】	中長期計画の作成【林2】 駆除・モニタリングの継続 左記の継続
		クマネズミ駆除	○根絶完了	○兄島・弟島終了後、対策を検討。【環境省】	事前調査、駆除計画の作成	駆除の実施【都6】	モニタリングの継続
	②固有種等に配慮した生態系管理						

：現時点で概ね完了 ：H24年度末時点までに完了予定 赤字:アクションプラン修正箇所

(2)母島列島

凡 例：環境省事業 林野庁事業 東京都事業 小笠原村事業 その他【共同実施事業等】

島名	対策の方向性	取組の項目	推薦後の短期目標 (～H24年度末)	対策の内容	事業進捗		
					平成22年度	平成23年度	平成24年度予定
母島	①湿性高木林 やモクダチバナ 林、母島列島型 乾性低木林の 保全	アカギ駆除	○駆除継続	○中長期計画「外来植物(アカギ)除去計画」等に基づく駆除やモニタリングを継続。 【林野庁】 ○西台・衣館の民有地からの駆除を継続し、庚申塚地区に着手。【環境省】	駆除前後モニタリング等継続 民有地での駆除の継続	駆除の継続(他、パパイヤ等)【林3】 駆除の継続【環10】 ボランティアによる駆除【林5】	駆除継続 駆除継続 ボランティアによる駆除 中長期計画の作成【林2】
		ガジュマル駆除	○エリア排除着手	○各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	駆除前後モニタリング等継続	駆除継続【林3】	駆除継続 中長期計画の作成
		モクマオウ・ギンネム駆除	○駆除後のモニタリング継続	○モクマオウ等の駆除区域への外来種の侵入状況等のモニタリングを継続(南崎地域)。【林野庁】 ○各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	駆除前後モニタリング等継続	駆除継続(他、リュウキュウマツ等)【林3】	駆除継続 中長期計画の作成【林2】
		希少植物種の保護	(アクションプランに記載なし)		生育状況調査、域外系統保存等	生育状況調査等継続【環15】	生育状況調査等継続
		グリーンアノール駆除	○新規排除エリアの設定 ○希少昆虫繁殖地でのポイント排除	○新規自然再生区を設定(地域未定)。【環境省】 ○オガサワラシジミの繁殖地において、繁殖時期のポイント排除を継続(地域未定)。【環境省】	自然再生区等での排除の継続	自然再生区等での排除の継続【環7】	排除の継続
	②オガサワラシ ジミなど固有昆 虫類の生息地 の保全	オオヒキガエル駆除	○エリア排除完了	○概ねエリア排除完了(南崎蓮池地区)。【環境省】	自然再生区等での排除の継続	自然再生区等での排除の継続【環7】	排除の継続
		オガサワラシジミ等生息 地モニタリング	○モニタリングの継続	○昆虫類を中心とした生態系回復モニタリング及びシジミ等の保護増殖対策を継続。 【環境省、オガサワラシジミの会】	生息状況調査等の継続	生息状況調査等の継続【環14】	調査等の継続
		生息に適した環境の創出	(アクションプランに記載なし)			自然再生区での外来植物の駆除【環10】 都用地における外来植物駆除、食餌木の調査等【都11】	植生回復の継続 植生回復の継続
		③オガサワラカ ワラヒワや海鳥 類の生息地の 保全	ノネコ排除 クマネズミ駆除 オガサワラカワラヒワ生息 環境調査	(中長期的に対応) (中長期的に対応) (アクションプランに記載なし)	(全島排除へ向けたスケジュールと調整しつつ、継続して検討) 生息状況調査の実施	南崎でのモニタリング継続 生息状況調査の継続【林10】	南崎周辺域での排除等の継続【環2】 調査の継続
	④アカガシラカ ラスバトの生息 地の保全	アカギ駆除	○駆除継続	※再掲	※再掲		
		ノネコ排除	(中長期的に対応)	※再掲	※再掲		
		クマネズミ駆除	(中長期的に対応)	※再掲	※再掲		
		食餌植物の植栽 アカガシラカラスバト生息 環境調査	○アカギ駆除継続 (アクションプランに記載なし)	○稚幼樹等の駆除等を継続。【林野庁】	生息状況調査の継続	生息状況調査の継続【林10】	調査の継続
	⑤陸産貝類の 生息地の保全	固有陸産貝類の保全方 針の検討	○具体的対策に着手	○検討会での保全方針の検討結果を踏まえて、必要に応じ具体的な対策を実施。【環境省】			
	⑥その他の対 策	ノネコ排除	○条例の適正な運用による管理の徹底	○飼いネコ・ノラネコ対策の実施(95%以上の不妊去勢率達成・60%以上のマイクロチップ挿入、条例改正)。【小笠原村・小笠原ネコに関する連絡会議・東京都獣医師会・NPO】	全域調査	調査等の継続【環2】	調査等の継続
		ニューギニアヤリガタリク ウズムシ駆除	○拡散防止の継続・普及啓発	○母島及び属島への拡散を防止するため、都レンジャー等による普及啓発、ははじま丸下船時の靴底の洗浄対策等を継続。【東京都】	普及啓発、指導の実施	普及啓発、指導の継続【都2】	活動の継続
向島	①母島列島型 乾性低木林の 保全	モクマオウ等駆除	○エリア排除着手	○空中写真による外来樹種の分布状況の把握、生息状況等の調査結果により平成23年度から着手予定。【林野庁】	駆除前モニタリング調査 外来植物分布図等の作成【林1】		事前モニタリング調査【林3】 中長期計画の作成【林2】
	②固有鳥類等 の生息地の保 全	ネズミ類駆除	○根絶完了	○父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】	生息状況調査	調査継続、駆除手法検討【環5】	調査継続、駆除手法検討
		オガサワラカワラヒワ等生 息環境調査	(アクションプランに記載なし)		生息状況調査の継続	生息状況調査の継続【林10】	調査の継続
姉島	①母島列島型 乾性低木林の 保全	モクマオウ等駆除	○現況把握	○外来種(モクマオウ、ギンネム等)の分布状況の調査を実施。【林野庁】	外来植物分布図等の作成【林1】		
		ネズミ類駆除	○根絶完了	○父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】	生息状況調査	調査継続、駆除手法検討【環5】	調査継続、駆除手法検討
		オガサワラカワラヒワ等生 息環境調査	(アクションプランに記載なし)		生息状況調査の継続	生息状況調査の継続【林10】	調査の継続
妹島	①母島列島型乾 性低木林の保 全	ギンネム等駆除	○現況把握	○外来種(モクマオウ、ギンネム等)の分布状況の調査を実施。【林野庁】	外来植物分布図等の作成【林1】	民有地における生育状況把握、駆除試験【環11】	駆除・モニタリング継続
		希少植物種の保護	(アクションプランに記載なし)		生育状況調査、域外系統保存等	生育状況調査等継続【環15】	生育状況調査等継続
	②固有鳥類等 の生息地の保 全	ネズミ類駆除	○根絶完了	○父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】	生息状況調査	調査継続、駆除手法検討【環5】	調査継続、駆除手法検討
		オガサワラカワラヒワ等生 息環境調査	(アクションプランに記載なし)		生息状況調査の継続	生息状況調査の継続【林10】	調査の継続
姪島	①母島列島型 乾性低木林の 保全	ギンネム等駆除	○現況把握	○外来種(モクマオウ、ギンネム等)の分布状況の調査を実施。【林野庁】	外来植物分布図等の作成【林1】	民有地における生育状況把握、駆除試験【環11】	駆除・モニタリング継続
		ネズミ類駆除	○根絶完了	○父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】	生息状況調査	調査継続、駆除手法検討【環5】	調査継続、駆除手法検討
		オガサワラカワラヒワ等生 息環境調査	(アクションプランに記載なし)		生息状況調査の継続	生息状況調査の継続【林10】	調査の継続
平島	①固有種等に 配慮した生態系 管理	アカギ駆除	-	-			
		モクマオウ等駆除	○現況把握	○外来種(モクマオウ、ギンネム等)の分布状況の調査を実施。【林野庁】	外来植物分布図等の作成【林1】		
		ネズミ類等駆除	○根絶完了	○父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】	生息状況調査	調査継続、駆除手法検討【環5】	調査継続、駆除手法検討

：現時点で概ね完了 :H24年度末時点までに完了予定

(3) 聟島列島

凡 例：環境省事業 林野庁事業 東京都事業 小笠原村事業 その他【共同実施事業等】

島名	対策の方向性	取組の項目	推薦後の短期目標 （～H24年度末）	対策の内容	事業進捗		
					平成22年度	平成23年度	平成24年度予定
聟島	①モクダチバナ 林を中心とした生態系管理	ギンネム駆除	○根絶完了	○ギンネム、タケ・ササ類の駆除を継続し、残存林保全に向けて順応的管理を実施。【東京都】	モニタリング調査、排除継続 外来植物分布図等の作成【林1】	駆除・モニタリングの継続【都4】	駆除・モニタリングの継続
		タケ・ササ類駆除	○根絶完了	○ギンネム、タケ・ササ類の駆除を継続し、残存林保全に向けて順応的管理を実施。【東京都】	モニタリング調査、排除継続 外来植物分布図等の作成【林1】	駆除・モニタリングの継続【都4】	駆除・モニタリングの継続
	②固有昆虫類 の生息地の保全	ガジュマル駆除	○エリア排除着手	○各機関連携のもと駆除に着手・完了。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	外来植物分布図等の作成【林1】		
		クマネズミ駆除	○根絶完了	○聟島での根絶を完了。【環境省】	駆除後のモニタリング	モニタリングの継続【環5】	モニタリングの継続等
	③アホウドリ類3 種の繁殖地の 保全・形成	アホウドリ新繁殖地形成	○継続	○繁殖期に、アホウドリの繁殖地である伊豆諸島鳥島から聟島までヒナを移送・放鳥し、巣立ちまで人工飼育を継続。【環境省】	繁殖地形成事業【環】	繁殖地形成事業	繁殖地形成事業
		アホウドリ類繁殖状況調査	（アクションプランに記載無し）		繁殖状況調査の継続	繁殖状況調査の継続【都13】	調査の継続
		シチヘンゲ駆除	○現況把握	○空中写真による外来樹種の分布状況の把握。【林野庁】 ○各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	外来植物分布図等の作成【林1】		
北ノ島	①海鳥類の繁殖 地の保存	外来植物等駆除	○現況把握	○空中写真による外来樹種の分布状況の把握。【林野庁】	外来植物分布図等の作成【林1】		
	②固有種等に 配慮した生態系 管理	クマネズミ駆除	（アクションプランに記載無し）		生息状況調査、生息しないことを確認【環		
煤島	①海鳥類の繁殖 地の保全	ギンネム駆除	○根絶完了	○土壌流出対策とともに、ギンネムなどの外来種の駆除を継続し、土壌流出防止及び残存林保全むけて順応的管理を実施。【東京都】	モニタリング調査、排除継続 外来植物分布図等の作成【林1】	駆除・モニタリングの継続【都4、5】	駆除・モニタリングの継続
		タケ・ササ類駆除	○根絶完了	○土壌流出対策とともに、ギンネムなどの外来種の駆除を継続し、土壌流出防止及び残存林保全むけて順応的管理を実施。【東京都】	モニタリング調査、排除継続 外来植物分布図等の作成【林1】	駆除・モニタリングの継続【都4、5】	駆除・モニタリングの継続
	②固有種等に 配慮した生態系 管理	ダム設置	（アクションプランに記載無し）		ダムの設置等継続	ダムの設置等の継続【都5】	ダムの設置等の継続
		クマネズミ駆除	○根絶完了	○父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】	生息状況調査【環5】		
嫁島	①海鳥類の繁殖 地の保全	タケ・ササ類駆除	○駆除着手	○空中写真による外来樹種の分布状況の把握。【林野庁】 ○平成22年度からNPO等と整備協定を締結しタケ・ササ類の駆除を推進。【NPO、林野庁】	外来植物分布図等の作成【林1】		
	②固有種等に 配慮した生態系 管理	クマネズミ駆除	○根絶完了	○父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】	生息状況調査【環5】		
西之島	①現況把握の 実施	現況把握のための調査の実施	○現況把握	○現況把握により外来種等の侵入状況を監視。【林野庁】	外来植物分布状況把握【林1】		
北硫黄島	①現況把握の 実施	現況把握のための調査の実施	（※中長期的に対応）		アカガシラカラスバト調査【都9】 外来植物分布図等の作成【林1】		調査の継続
	②海鳥類の繁殖 地の保全	ネズミ類駆除	（※中長期的に対応）				
南硫黄島	①現況把握の 実施	現況把握のための調査の実施	（※中長期的に対応）		外来植物分布図等の作成【林1】		

：現時点で概ね完了 :H24年度末時点までに完了予定

生態系保全アクションプラン 平成 23 年度事業進捗及び平成 24 年度事業計画 (詳細事業内容)

■実施機関：環境省

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
ノヤギ・ノネコ	環 1	外来動物対策調査 (ノヤギ・ネコ侵入防止柵検討)	父島	① ヤギ・ノネコ侵入防止柵・設置の継続。 ・外来植物、希少植物等について、事前モニタリングを実施。 ② ノネコ捕獲 ・H22 年より、排除区及び父島山域による捕獲を開始。 ③ ノヤギ捕獲 ・ノヤギ及び植生モニタリングを開始。 ・ノヤギ排除を開始、 ④ ノヤギ排除の実施に関して、島内関係機関への説明、住民説明会の開催、チラシの配布、看板の設置などによる周知。	① ノヤギ部分がほぼ完成 ② H22 年度に父島において 60 頭以上を捕獲。 ③排除区内及び周辺域で 34 頭を排除。 ノヤギ排除の実施(継続)、ノヤギ及び植生(外来・希少植物等)モニタリング(継続)、民有地における外来植物(リュウキュウマツ、モクマオウ、アカギ)の駆除実施 ④島民等への周知等の実施	①東平外周柵設置完了。 ② ノネコ捕獲継続 ③ノヤギ排除の実施(継続)、ノヤギ及び植生モニタリング(継続)、民有地における外来植物(リュウキュウマツ、モクマオウ、アカギ)の駆除実施 ④ノヤギ排除の実施に関して、島内関係機関への説明、住民説明会の開催、チラシの配布、看板の設置などによる周知。	② ノネコ排除 センサーカメラ、フンの痕跡調査 ③ノヤギ排除(継続) ・ノヤギ生息状況(東平柵内：センサーカメラ、行動域調査、船上カウント、定点観察、排除効率等) ・植生(外来植物(東平柵内個体数調査)・希少植物(東平周辺で個体ベース調査)、定点写真 ・侵入防止柵設置箇所における外来植物侵入状況(東平柵沿い)	① 柵設置完了 ② H23 年度に父島において 37 頭を捕獲(1 月末)。 ③ ノヤギ排除 ・H23 年度、柵内で 81 頭を排除。昨年度と合わせ、柵内で 98 頭を排除。(1 月末) ・ノヤギ生息状況及び植生のモニタリングの実施。 ④島民等への事業の周知、進捗の報告の実施。	① 維持管理(継続) ② ノネコ捕獲(継続) ③ノヤギ排除(継続) ・ノヤギ排除作業(銃器及びわな)の継続。 ・ノヤギ生息状況及び植生のモニタリングの継続 ④ノヤギ排除に関して、島民等への周知、報告等の実施。	「東平ノヤギ・ノネコ排除柵設定に関する検討会」において検討
	環 2	ネコ侵入防止柵設計	母島	①南崎先端部排除区モニタリング実施。 ②母島におけるノネコ生息のモニタリング開始	① H21 年度に引き続き、モニタリング及びモニタリング状況に応じて周辺域におけるノネコの排除を実施。H22 年度は、17 頭を排除。	① 継続して実施	ノネコ生息状況(センサーカメラ)(継続)	① H22 年度に引き続き、モニタリング及びモニタリング状況に応じて周辺域におけるノネコの排除を実施。H23 年度は、2 頭を排除。	① ノネコのモニタリング及び捕獲(継続)	
ノネコ	環 3	外来ほ乳類対策	兄島・弟島	①踏査および自動撮影機による残存個体の確認調査を継続する。 ② 弟島における試験捕獲を継続する。	①兄島では、ノネコの新しい痕跡等は確認されなかった。調査開始から 3 年経過したが、新しい痕跡が確認されていないことから、残存している可能性は極めて低いと思われる。 ②弟島では、自動撮影機の使用や踏査による痕跡調査を行ったが、H22 年 4 月以降、個体や新しい痕跡が確認されていない。	①モニタリングを縮小する。兄島では、他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。 ②弟島では、引き続き残存個体の有無を確認するモニタリング(自動撮影機の使用および踏査)を行う。	ノネコ生息状況(踏査、センサーカメラ)(継続)	① 兄島では、ノネコの痕跡等はなし。調査を開始して 4 年経過したが、個体情報が得られていないことから、未生息状態と考えられる。 ② 弟島では、ノネコの新しい痕跡等の確認なし。H22 年 2 月までに 3 頭捕獲し、それ以降 2 年が経過したが、新しい痕跡等が確認されていないことから、残存している可能性は極めて低い。	モニタリングを縮小する。他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	
	環 4	外来動物対策調査 (ノブタ駆除の検討と先行実施)	弟島	①踏査および自動撮影機による残存個体の確認調査を継続する。 ②残存個体が確認された場合、銃器などを使用して効率的に排除する。	①利用頻度が高かったガジュマルの周辺での自動撮影機および踏査による痕跡調査を行ったが、新しい痕跡等は確認されなかった。	①モニタリングを縮小する。他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	ノブタ生息状況(経過確認)(継続)	ノブタの痕跡等は確認されなかった。	他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	平成 21 年 11 月の科学委員会では根絶を発表
クマネズミ	環 5	外来動物対策調査 (聾島・東島・兄島、兄島)	聾島・東島・兄島、兄島	①聾島、兄島、弟島、西島、東島など駆除実施地域でのネズミ	①弟島にてクマネズミの生息を確認、その他の駆除実施島嶼ではネズミ	①既駆除地域でのモニタリング調査の継続	○駆除実施地 ・外来ネズミの生息状況(継続)	① 既駆除地でのモニタリング調査(4 回終了)の結果、弟	① 既駆除地域でのモニタリング調査の継続	「ネズミ類対策検討会」において検討

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
		島排除、母島属島排除計画検討)		ズミ類生息状況のモニタリング調査 ②駆除によって影響が生じる可能性があるオガサワラノスリ、アホウドリ類などのモニタリング調査 ③駆除の効果を把握するための陸産貝類、鳥類などの生息状況調査 ④母島列島など、駆除未実施地域の事前調査	類の生息に関する情報が得られていない ②弟島、兄島、東島でのオガサワラノスリの繁殖状況を調査し、駆除前に比べて繁殖つがい数が減少していることを確認した ③兄島の陸産貝類の生息状況を調査し、近年続いていた食害率の上昇が停滞し、生息密度の上昇が示唆された ④母島属島の向島、平島、姉島、妹島、姪島でネズミ類の生息状況調査を実施し、すべての島でドブネズミの生息を確認した(クマネズミの確認はなし) ⑤媒島、嫁島でネズミ類の生息状況調査を実施し、クマネズミが高密度に生息している事を確認	② 生息が確認された弟島から兄島への再侵入リスクを低減する対策として、弟島南部での個体数管理を実施。残存した場所における対策の検討。 ③非標的種の生息状況のモニタリングの継続。陸産貝類等、ネズミ類による被害を受けていた生物の回復状況をモニタリング。 ④駆除方法の改善策を検討するとともに駆除未実施地域(母島属島、媒島、嫁島)の事前調査の継続	・植物、陸産貝類、昆虫、鳥類(ノスリ)等生息状況 ・植物(タコノキなど)の食害状況調査(年5回)(継続) ・陸産貝類生息状況(兄島/年2回、弟島/年1回)(継続) ・オガサワラノスリ繁殖状況(兄島、弟島、東島、年1回)(継続) ・アホウドリ、鳥類、植物、昆虫・海草等の生息状況(専門家ヒアリング等による) ○駆除未実施地(主に母島列島) ・外来ネズミの生息状況(継続) ・生態系影響に関する専門家ヒアリング(海鳥類、植物、陸産貝類、昆虫類、甲殻類等) ・陸産貝類生息状況(向島、平島、姉島、妹島、姪島/1回) ・陸生鳥類生息状況(向島、妹島、姪島/年1回)	島以外ではネズミの生息は確認されず ②弟島南部での個体数管理を実施 ③東島でオオハマギキョウ、兄・弟島でアカガシラカラスバトの個体数増加を確認、兄島の陸産貝類も増加傾向、オガサワラノスリの繁殖つがい数は兄・弟島ともに減少 ④新たな殺鼠剤として、第2世代の導入について法的な整理を検討、母島属島での事前調査として、陸生鳥類の生息状況等を調査	② 弟島から兄島への再侵入対策の継続 ③ オガサワラノスリなど鳥類、植物、陸産貝類などのモニタリングの継続 ④ 駆除手法の改善に関する検討、および弟島での再駆除、母島属島での駆除実施と、駆除前のネズミ類・非標的種生息状況調査の実施	
グリーンアノール オオヒキガエル	環6	外来生物重点防除事業 (父島アノール対策)	父島	①重点防除区域を中心に、グリーンアノールの捕獲及び生息状況のモニタリングを継続する。 ②引き続き重点防除区域にアノールが分散してくる侵入経路「アノールコリドー」等において重点的でより効果的な対策を実施する。 ③属島へのアノールの侵入に対する早期対処の作業を実施し、普及啓発を図る。 ④オオヒキガエルの防除方法、体制等を検討し、生態系影響を評価する。 ⑤島民等に対する業務の普及啓発の実施。	①二見港周辺の重点防除区域及び移動経路となる地域において、専属捕獲員により、捕獲開始からH23年3月までにアノール約6,700個体を捕獲した。H23年2月における推定生息密度は、12.8個体/haであった。防除区域外に比べ、重点防除区域での密度は2割未満に低減することができた。 ②管理の軽減と錯誤捕獲を防止するトラップを作成・試験捕獲を行い、効果を確認した。また、簡易フェンスとトラップを併用する手法の試行により、捕獲の効率化を検討した。港湾付近の植生管理を実施した。 ③関係者への聞き取り等の結果、アノールの属島への侵入は確認されなかった。また、H22年7月にオオヒキガエル1個体が兄島滝ノ浦で捕獲されたが、その後、侵入個体は確認されていない。 ④オオヒキガエルが兄島で発見されたことから兄島での緊急調査を実施した。その後、モニタリングを継続したが、発見はされなかった。 ・属島への移入を防ぐため、港湾周	①重点防除区域を中心に、グリーンアノールの捕獲及び生息状況のモニタリングを継続する。防除の緊急性が高い地域について調査を実施し、防除区域等への検討を行う。 ②引き続き植生管理等を行うとともに、重点防除区域にアノールが集中する侵入経路等において重点的でより効果的な対策を試行する。 ③属島へのアノール等の侵入状況の把握、侵入に対する早期対処の作業を実施し、普及啓発を図る。 ④オオヒキガエルの防除方法、体制等を検討し、生態系影響を評価する。兄島でオオヒキガエルが発見されたことから、モニタリングを継続する。 ⑤島民等に対する業務の普及啓発を実施し、普及啓発用展示物の	○父島(二見港)(継続) ・アノール生息状況(トラップによる捕獲/通年、ルートセンサス/年2回) ・オオヒキガエル生息状況(手取り等による捕獲/年1回) ○父島・母島(全域) ・アノール・オガサワラトカゲ生息状況(ルートセンサス等/年1回) ○属島(父島列島)(継続) ・アノール・オオヒキガエル侵入状況の確認(踏査/適宜) ・(兄島)オオヒキガエル根絶確認(音声モニタリング/適宜、踏査/2ヶ月1回程度)	①二見港周辺の重点防除区域及び移動経路となる地域において、専属捕獲員により、捕獲開始からH23年12月までにアノール約7,600個体を捕獲した。H23年10~11月における推定生息密度は、49個体/haであった。防除区域外に比べ、重点防除区域での密度は2割未満に低減することができた。 ②重点防除地域ではアノール生息適地排除のために植生管理を行った。簡易柵によるアノール遮断技術を検討した。 ③踏査と関係者への聞き取り等の結果、アノール・オオヒキガエルの属島への侵入は確認されなかった(2011年12月現在)。 ④兄島で音声モニタリングを継続したが、オオヒキガエルの生息は確認されなかった。残	① 重点防除区域を中心に、グリーンアノールの捕獲及び生息状況のモニタリングを継続する。 ② 重点防除区域等において、アノールの生息・繁殖しないよう土地管理者への対策の広報を行う。アノール密度分布に基づき、更に密度低下をさせるための港湾周辺のアノール対策を検討する。 ③属島へのアノール等の侵入状況の把握、侵入に対する早期対処の作業を実施する。 ④オオヒキガエルの防除方法、体制等を検討し、重要地域における試験捕獲を実施し、生態系影響を評価する。 ⑤島民等に対する業務の普及啓発を実施し、普及啓発用展示物や啓発資料を作成する。	

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
					辺に防除区域を設定した。防除区域内では集中捕獲を実施し、成体・幼体約 550 個体を捕獲した。 ⑤外来動物対策(グリーンアノール、ノネコ、ネズミ等)について解説した展示パネルを小笠原、本土用に制作した。 ・パンフレット「小笠原の自然のために-私たちができること」を改訂し、外来種拡散防止の普及啓発を実施。村民や観光協会等へ配布。また小笠原丸の客室にラミネート版を設置した。 ・事業説明会、講演会、イベントを実施した。 ⑥警察によって捕獲された父島扇浦の畑で野生化したグリーンイグアナ(♀、1 個体)の剖検を行った。	整備、過去パンフレットの改訂を行う。また、属島利用にあたってのマニュアル策定等の検討を行う。		存の可能性は低い。 ・重点防除地域でオオヒキガエルの試験捕獲を実施した。 ⑤パンフレット「外来動物対策は今！の改訂作業を実施中。 ・属島利用マニュアルを策定中。 ・外来種等の樹脂封入標本、レプリカを製作中。 ・外来種対策関連の講演会を実施した。 ⑥父島でグリーンイグアナ 1 個体を捕獲した。		
グリーンアノール オオヒキガエル	環 7	外来両生爬虫類対策事業 (母島アノール対策事業)	母島	①自然再生区においてアノールとオオヒキガエルの排除作業を継続する。 ②外来種除去による影響緩和に伴う昆虫類及び土壌動物等の回復状況をモニタリングする。 ③自然再生区以外の希少昆虫等の重要な生息場所でも、アノールやオオヒキガエルの防除を行い、生態系への影響を緩和する。	①・新タ日ヶ丘ではアノールの密度は捕獲開始前の 10%程度にまで低下した。オオヒキガエルの生息は確認されなかった。 ・南崎の草原部でアノールのモニタリングと駆除を実施した。オオヒキガエルは確認されなかった。 ②・新タ日ヶ丘では、一部の昆虫類の増加が確認された。また、植栽した在来樹へのオガサワラシジミの飛来・産卵が確認された。 ・南崎では草原部のオガサワラセセリの生息数は比較的大きく変動することが示された。 ③・蓮池では、踏査による調査を実施し、オオヒキガエルの繁殖阻止を確認した。 ・石門等でアノールの防除を行った。	①自然再生区においてアノールとオオヒキガエルの排除作業を継続する。 ②外来種除去による影響緩和に伴う昆虫類及び土壌動物等の回復状況をモニタリングする。また、アカギ対策等を実施し、在来昆虫類等に適した環境に再生する。新タ日ヶ丘を小笠原国立公園における自然再生事業を情報発信する場として活用できるよう、住民と連携して自然再生を進める。 ③自然再生区以外の希少昆虫等の重要な生息場所でも、アノールやオオヒキガエルの防除を行い、生態系への影響を緩和する。	○新タ日ヶ丘自然再生区(継続) ・アノール・オガサワラトカゲ生息状況(トラップによる捕獲／通年、エリアセンサス／年 2 回) ・オオヒキガエル根絶確認(踏査・トラップ／通年) ・無脊椎動物(ヒメカタゾウムシ等)生息・回復状況 ○南崎自然再生区(継続) ・アノール・オガサワラトカゲ・オオヒキガエル生息状況(捕獲・ルートをセンサス／年 1 回) ・無脊椎動物(オガサワラセセリ、ヒメカタゾウムシ等)生息・回復状況 ○その他地域(継続) ・(石門)アノール生息状況(トラップによる捕獲／通年) ・(蓮池周辺)オオヒキガエル生息状況(ルートをセンサス等／適宜) ・無脊椎動物(オガサワラシジミ、等)生息・回復状況 ・固有トンボ、オガサワラシジミ回復事業に係る生息状況	①・新タ日ヶ丘ではアノールの集中捕獲とモニタリングを継続し、低密度状態を維持した。オオヒキガエル侵入を阻止した。 ・南崎草原部ではアノールの駆除とモニタリングを実施した。オオヒキガエルの生息は確認されなかった。 ②新タ日ヶ丘では昆虫類の増加が確認された。地元住民と連携してオガサワラシジミのモニタリングを実施し、植栽した外来樹での発生するのが確認された。 ・南崎草原部では、オガサワラセセリが少数ながら生息しているのが確認された。スジヒメカタゾウムシの安定的な生息が確認された。 ③・石門でアノールの駆除とモニタリングを実施した。 ・遮断柵により蓮池でのオオヒキガエル繁殖を阻止した。踏査では周辺で成体が捕獲された。	①自然再生区においてアノールとオオヒキガエルの排除作業を継続する。 ②外来種除去による影響緩和に伴う昆虫類及び土壌動物等の回復状況をモニタリングする。また、外来植物等の試験駆除とモニタリングを実施する。新タ日ヶ丘を小笠原国立公園における自然再生事業を情報発信する場として活用できるよう、住民と連携して自然再生を進める。 ③自然再生区以外の希少昆虫等の重要な生息場所でも、アノールやオオヒキガエルの防除を行い、生態系への影響を緩和する。	「平成 22 年度より新タ日 WG を設置」WG で検討。
ウシガエル	環 8	外来両生爬虫類対策事業 (弟島ウシガエル駆除)	弟島	①モニタリングを継続する。万一、残存個体が発見された場合は早急に対処する。 ②人工池を維持管理し、固有ト	①音声モニタリング調査を継続して行ったが、ウシガエルの生息は確認されなかった。残存している可能性は極めて低いと考えられる。	①監視を継続する。万一、残存個体の生息が疑われる場合は適切に対処する。 ②継続して人工池の管理を行っ	・人工トンボ池における固有トンボ類生息状況 ・根絶モニタリング(音声モニタリング／7～9 月)(継続)	①音声モニタリングを継続。ウシガエルの生息は認められなかった。残存する可能性は極めて低い。	①監視を継続する。万一、残存個体の生息が疑われる場合は適切に対処する。 ②継続して人工池の管理を行っ	平成 21 年 11 月の科学委員会では根絶を発表

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
				ンボ類の生息場所を確保する。	②トンボ類の繁殖池を維持管理した。固有トンボ類がこれを利用して繁殖しているのを確認した。	て、固有トンボ類の生息場所を確保する。		②トンボ類の人工繁殖池を維持管理した。人工池で固有トンボ類が安定的に繁殖しているのが確認された。	て、固有トンボ類の生息場所を確保する。	
ニューギニアヤリガタリクウズムシ	環 9	ブラナリア対策・陸産貝類保全調査（～H18年度：小笠原国立公園生態系特定管理手法検討調査）	父島	①21 年度業務において固有陸産貝類の急激な減少が確認された夜明山地域においてブラナリア類の侵入状況確認調査を実施	①夜明山地域を対象としてブラナリアの侵入状況確認調査を実施したがブラナリア類は確認されなかった。	①重要地域のブラナリアの分布調査を実施	○父島の5地域56地点においてブラナリア類の生息状況			「ブラナリア対策・陸産貝類検討会」において検討 ・再導入地域のブラナリアの個体数の低減
固有陸産貝類				②電気柵を設置し、柵内部のブラナリア類排除実験及び陸産貝類の逸出防止等の実験を行い、維持管理方法を確認。希少陸産貝類の域外保全エリアにおける保全管理計画を作成 ③室内飼育マニュアルの作成、夜明山地域におけるキノボリカタマイマイ及びカタマイマイの一斉捕獲、室内飼育の開始 ④上記を踏まえた、再導入区域での保全策や管理手法の検討	③ 扇浦地区に野外飼育施設を試験的に設置(面積約 20 m ²)。内部のブラナリア排除実験を実施し、外来陸産貝類による飼育実験を行ったが、ネズミ対策の強化等が課題として残った。 ④ H23 年 1 月から父島におけるカタマイマイの室内飼育を開始。 ④再導入区域におけるブラナリア低密度化手法の検討を行ったが技術確立には到らなかった。	②域外保全技術を確立するために野外飼育手法の検討(ブラナリア類の排除、ネズミ類侵入防止柵の設置、陸産貝類の再確認実験等)と室内飼育の継続による技術確立。 ③再導入区域での保全策、管理手法(ブラナリア類の低密度化実験、ブラナリア類の侵入防止実験等)の検討 ④母島の登山口においてブラナリア類除去装置を設置。	○父島の5地域56地点において陸産貝類の生息状況	○父島において恒温機による室内飼育を開始。追加捕獲を実施し、H24 年 1 月現在カタマイマイ 12 個体、キノボリカタマイマイ 2 個体を飼育中。キノボリカタマイマイは 4 年ぶりに父島での生息を確認。	○恒温器による飼育と繁殖技術の確立。 ○野外飼育施設における固有陸産貝類の飼育開始。	方法及びその効果の検証。 ・その他の陸産貝類の絶滅危惧状況の把握。 ・侵入抑制のため道路についてはブラナリア除去装置等を各機関設置しているが、道路以外からの侵入については有効な対策が無いのが現状である。このままであれば父島での陸産貝類の絶滅も危惧されるが有効と考えられる対処方法について助言をいただきたい。
アカギ	環 10	アカギ対策検討調査	母島、弟島	①母島の椰子浜、長浜以北(国立公園内)からの成木根絶を目指した駆除試験の継続。 ②上記駆除試験実施のための用地確保 ③既往試験地でのモニタリングと駆除対策の追加実施 ④固有昆虫やアカガシラカラスバト等の希少種の生息環境の保全のための駆除試験及びモニタリングの実施。 ⑤父島東平地区の主に民有地、都有地における外来植物駆除の実施。 (「小笠原地域自然再生事業外来ほ乳類対策調査業務」との連携による実施) ⑥アカギ対策の普及啓発活動の実施	①母島北部私有地における駆除試験用地の確保 ②母島北部地域における総合的アカギ駆除試験の実施 ③希少動植物再生のための試験駆除実施 ④既往試験地のモニタリング ⑤父島での優先的実施個所の提案	①母島北部私有地における駆除試験用地の確保 ②母島北部地域における総合的アカギ駆除試験の実施 ③希少動植物再生のための駆除試験実施(母島新夕日ヶ丘におけるWG 活動における事業推進を図る) ④既往試験地のモニタリング ⑤母島北部地域におけるイエシロアリ対策の対応等(イエシロアリの生息域の把握町の実施ほか) ⑥普及啓発 アカギ材を用いた木工教室やオガクズ粘土のWS開催、英語版パンフレットの作成	○既往試験地のアカギ再生状況調査 ○母島北部イエシロアリの分布調査・	○母島北部私有地における駆除試験を実施(衣館地区) ○母島新夕日ヶ丘再生区内における外来樹木の枯殺処理 ○アカギ材を用いた箸等の木工教室の開催(新宿御苑、母島)、アカギ粘土教室の開催(母島小中学校、母島明老会) ○アカギ駆除に関する英語版パンフレットの作成	○母島北部を中心とした私有地における駆除試験の実施。 ○母島新夕日ヶ丘再生区内における植生回復(外来樹木等の駆除等)の継続実施 ○既往試験地の再処理とモニタリング ○普及啓発の実施	・民有地については、土地登記者が高齢化しており、戦前居住していた方などは連絡の追跡が難しく、こうした一部の土地で駆除が実施できない状況となっている。 未駆除地が種子の供給源となって駆除後のエリアへの侵入が懸念される。

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
モクマオウ（リュウキュウマツを含む）	環 11	外来植物対策調査業務（モクマオウ・リュウキュウマツ対策）	兄島、弟島、妹島、姪島	①兄島台地上における既往駆除試験のモニタリングおよび侵入個体の駆除処理 ②弟島におけるギンネム根絶に向けた駆除処理の継続実施、ガジュマル実生個体の駆除及び弟島における外来植物監視体制の構築	①兄島におけるモニタリング ②弟島におけるモニタリング ③母島属島における外来植物対策検討 ④シロアリに関するモニタリング	①兄島台地上における既往駆除試験のモニタリングおよび既往試験地(16.5ha)における再生個体・侵入個体の駆除処理 ②弟島におけるギンネム根絶に向けた駆除処理の継続実施、弟島民有地におけるモクマオウ等の駆除など全島的な監視・駆除の実施 ③母島属島(妹・姪島)民有地における侵略的外来種の駆除試験の実施 ④父島東平のノヤギ防止柵内民有地での外来植物駆除の実施 ⑤枯殺効果の高い駆除方法(除草剤による樹幹注入処理)の確立試験	○既往試験地調査（兄島、弟島） ・生態系への影響 ・稚樹のモニタリング ・陸産貝類生息状況 ・昆虫調査生息状況	○既往試験地（兄島・弟島）における追加枯殺処理の実施 ○妹島（リュウキュウマツ、ギンネム）、姪島（モクマオウ）における外来樹木の駆除試験の着手 ○父島東平柵内の外来植物の追加駆除の実施 ○除草剤（ラウンドアップ以外）による枯殺試験の実施と経過観察による枯殺効果の確認調査の実施	○兄島・弟島における駆除及び監視の実施 ○弟島における新規外来種の対策試験の検討・着手（ガジュマル成木）。 ○妹島におけるギンネム根絶に向けた継続的な枯殺処理と既往処理箇所（リュウキュウマツ、ギンネム）のモニタリング ○姪島におけるリュウゼツランの駆除試験の検討・着手。既往処理箇所（モクマオウ）のモニタリング ○除草剤による枯殺手法の確立試験の継続	
アカガシラカラスバト	環 12	アカガシラカラスバト保護増殖事業に関する調査等業務	父島列島	①目撃情報の収集・管理 ②生息状況調査 ①標識装着 ②餌資源調査 ③環境条件の地理的情報整理	①非繁殖期(4～9月)に延べ195羽の目撃情報を収集整理した。 ②繁殖期に父島の夜明平周辺、東平及び中央山域の3箇所計4番の繁殖が確認された。 ③父島で12羽に足環を装着。 ④非繁殖期(5～9月)に父島において餌資源となり得る植物の結実状況を調査した。 ⑤好適繁殖地の把握のための地理的基盤情報を整備。	①目撃情報の収集・管理 ②生息状況調査 ③標識装着 ④環境条件の地理的情報整理及び繁殖環境条件の解析	・アカガシラカラスバトの生息状況、繁殖状況	① 非繁殖期（4～10月）に延べ316羽の目撃情報を収集整理した。 ② 繁殖期の目撃情報収集、父島列島における繁殖状況等調査を実施中。 ③ 父島において3羽に足環装着（24.1月末）。 ④ 過去の出現データ、環境要素等地理的情報を整備し、父島における好適繁殖地の解析を実施中。	① 目撃情報の収集・管理 ② 生息状況調査 ③ 標識装着 ④ 父島における解析抽出された好適繁殖地の調査及び解析	「アカガシラカラスバト保護増殖検討会」で検討。
オガサワラオオコウモリ	環 13	オガサワラオオコウモリ生息状況等調査事業	父島	①生息数調査 ②農地等の地理的情報整理	①冬季ねぐら域及び周辺において生息数調査を実施。 ②父島における事故等危険地域把握のための地理的情報を収集整理。	①生息数調査 ②冬季ねぐら域の環境調査 ③農地等利用域の環境要素及び作物被害状況の把握	・オガサワラオオコウモリの生息数 ・冬季ねぐら域の環境	① 農業被害実態調査を実施中。 ② 農地情報等地理的情報を整備し、事故等危険地域の解析を実施中。	① コウモリ事故防止のための普及啓発 ② 繁殖期を中心としたねぐら周辺域の巡視 等	
希少昆虫類	環 14	小笠原希少昆虫保護増殖事業に関する調査等業務	父島属島、母島属島	①オガサワラシジミ、オガサワラトンボ、オガサワラアオイトトンボ、ハナダカトンボ、オガサワラハンミョウの生息状況調査、生息環境調査、保護増殖事業中期実施計画の作成、シュロガヤツリ(外来植物)の試験駆除、普及啓発の促進、連絡会議の開催。	①各種の生息可能性の高い地域において、生息状況調査及び生息環境調査を実施。 ②中期実施計画を作成。 ③オガサワラハンミョウの個体数減少が続いており絶滅の危険があることから、生息域外保全に関する検討を開始。 ④昆虫5種の保護に対する理解と協力を得るため、住民説明会を開催。	①昆虫5種の生息状況調査及び生息環境調査を継続する。 ②オガサワラハンミョウの生息域外保全を実施し、死亡個体の遺伝子解析を試みる。 ③弟島のシュロガヤツリ(外来植物)の試験駆除を継続する。 ④必要な種について専門家打合せを開催(4回程度開催予定)。連絡会議の開催(1回程度開催)。	・オガサワラシジミ、オガサワラトンボ、オガサワラアオイトトンボ、ハナダカトンボ、オガサワラハンミョウの生息状況及び生息環境(継続) ・シュロガヤツリ駆除後の固有トンボ類の回復状況等検証(継続)	① 昆虫5種の生息状況調査及び生息環境調査、密漁防止目的の巡視を実施。 ② オガサワラハンミョウの生息域外保全を3カ所に分散して実施中。死亡個体の遺伝子解析を実施した。 ③ 兄島ルート上でオガサワラハンミョウの巣の踏圧が確認され防止柵を設置	① 昆虫5種の生息状況調査及び生息環境調査を継続する。 ② オガサワラハンミョウの生息域外保全を継続し、野生復帰の必要性及び影響評価のための情報収集・検討を行う。 ③ 弟島のシュロガヤツリ(外来植物)の駆除を継続する。	「小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議」及び同専門家打合せにおいて検討。

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
					⑤生息状況把握及び密猟防止目的の巡視を実施。 ⑥関係行政機関、研究者及び地元の団体等による連絡会議を2回開催。			した。 ④ 弟島のシュロガヤツリ（外来植物）の駆除を実施した。 ⑤ 父島及び母島で住民説明会を1回開催。専門家打合せを2回、連絡会議を1回開催した。	④ 住民説明会、専門家打合せ、連絡会議を開催する。	
希少植物	環 15	小笠原希少野生植物の生育状況調査等 域内保全事業 小笠原希少野生植物域外保全事業	父島、兄島、母島、妹島、域外保全施設	①生育地における生育状況等モニタリング ②ノヤギ、ネズミ類による食害防止等生育環境の維持改善 ③域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等	①生育地における生育状況等のモニタリング、生活史解明のための調査等を実施。 母島でホシツルランのウィルス感染が確認されたため、感染株（過去に植栽した株）を除去。 ②台風で倒壊した父島ムニンツツジのノヤギ防止柵を再設置。 ③域外保全施設において、系統保存、増殖技術の試験等を実施中。	①生育地における生育状況等モニタリング ②ノヤギ、ネズミ類による食害防止等生育環境の維持改善 ③域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等	・希少植物13種の生育状況（過去の植栽株を含む） ・ノヤギ、ネズミ類による食害防止施設の状況	① 生育地における生育状況等のモニタリング、生活史解明のための調査等を実施。 ② ノヤギ、ネズミ防止柵の維持管理を実施。 ③ 域外保全施設において、系統保存、増殖技術の試験等を実施中。 ④ 5種について植栽実施計画を検討した。 ⑤ 生育地の地理的情報を整備した。	① 生育地における生育状況等モニタリング ② ノヤギ、ネズミ類による食害防止等生育環境の維持改善 ③ 域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等 ④ 自生個体の人工授粉、播種試験等の植栽を実施 ⑤ 生育地の土壌等環境条件の調査及び生育適地の解析 ⑥ 植栽実施計画未検討種の検討	「小笠原希少植物保護増殖事業「植栽」に関する検討会」において「植栽実施計画」について検討。

※関東地方環境事務所にて実施

■実施機関：林野庁

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
外来植物 (アカギ、モクマオウ等)	林 1	小笠原諸島外来植物分布状況調査	小笠原諸島	○21 年度撮影の空中写真により、21 年度実施箇所以外の島(母島列島のうち、向島・姉島・妹島・姪島・平島、聟島列島、火山列島及び西ノ島)の外來植物の分布状況等を分析した。	○21 年度撮影の空中写真(母島属島、聟島列島、火山列島、西ノ島)により外来植物の分布状況等を分析し、分布図を作成するとともに駆除優先地域の選定及び判読精度の検証(判読結果と現地の検証)を行った。判読精度はおおよそ 86%である。 なお、平成 21 年度及び 22 年度調査により、小笠原世界遺産候補地全域の外来植物分布図が完成。	—				
	林 2	中・長期の外来植物駆除計画策定	小笠原諸島			○専門家からなる検討委員会を設置して、「林 1」で作成した外来植物分布図等をベースに、島毎、地域毎、樹種毎等に優先順位を検討し、中長期的な駆除計画を作成。		計画策定にあたっては、専門家からなる検討委員会を設置し、平成 24 年度以降の中・長期計画を策定。		
アカギ、モクマオウ、リュウキュウマツ等	林 3	森林生態系の修復を目的とした外来植物の駆除	父島、兄島、弟島、母島、向島等	○ 薬剤注入によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ等の駆除を、父島等で実施した。 また、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を母島で実施した。 ○ 外来種駆除に当たっては、順応的な管理のため、事前モニタリング・事後モニタリングを実施した。 ○ 23 年度以降の駆除予定地で、事前モニタリング調査を実施した。	○ 薬剤注入による駆除を、父島東部(約 18ha)でアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ等を約 26 百本、兄島(約 13ha)でモクマオウ、リュウキュウマツ、ギンネムを約 22 百本、弟島(約 7ha)でモクマオウ、リュウキュウマツ、ソウシジュ等を約 6 百本、母島石門(約 13ha)でアカギ、ガジュマル等を約 37 百本、西台(約 11ha)でアカギ等を約 14 百本、向島(約 19ha)で、モクマオウ、ギンネムを約 18 百本を駆除した。 また、稚幼樹の抜き取り等を兄島でランタナ、ホナガソウ等を、母島石門及び西台でアカギ及びパパイアを、母島南崎でギンネム等を実施した。 ○ 外来種駆除に当たっては、順応的な管理のため、事前モニタリング・事後モニタリングを実施した。 ○ 23 年度以降の駆除予定地である父島東部(旭山約 42ha、桑の木山約 36ha)、兄島(約 23ha)、弟島(約 20ha)、母島石門(約 18ha)、西台(約 18ha)、桑ノ木山(約 22ha)、向島(約 18ha)で外来植物の分布調査及び事前モニタリング調査を実施した。	○ 薬剤注入等によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ等の駆除を、父島東部(約 6ha)、兄島(約 14ha)、母島(石門及び西台で約 23ha)、弟島(約 16ha)で予定。 また、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を兄島、弟島、母島(石門、西台、南崎)、西島、東島で実施予定。 ○ 24 年度以降の駆除予定地である兄島(約 8ha)、弟島(約 8ha)、向島(約 9ha)、西島(約 3ha)、東島(約 14ha)で外来植物の分布調査及び事前モニタリング調査を実施。	○ 外来植物の駆除に当たっては、順応的な管理のための事前モニタリング及び事後モニタリングを実施。 モニタリングの内容 ① 鳥類(ラインセンサス、ポイントセンサス等) ② 昆虫類(直接観察、トラップ等) ③ 陸産貝類(コドラート等) ④ 植生(プロット等) ⑤ 陸水動物(コドラート等) ⑥ 水質・土壌成分(薬剤の残留状況) ⑦ シロアリ(ラインセンサス等：父島及び母島) ※「小笠原諸島における森林生態系保全管理技術事業」によるモニタリング結果も活用	○伐倒駆除を、父島東部(約 6ha)でアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウを約 172 本実施。薬剤注入による駆除を、兄島(約 14ha)でモクマオウ、リュウキュウマツギンネムを約 24 百本、弟島(約 11ha)でモクマオウ、リュウキュウマツ、アカギ等を約 24 百本、母島石門(約 5ha)でアカギ、パパイア等を約 24 百本、西台(約 181ha)でアカギ等を約 8 百本駆除した。 また、稚幼樹の抜き取り等について、兄島でランタナ、ホナガソウ等を、弟島、東島、西島父島東部でリュウキュウマツ、モクマオウを、母島石門及び西台でアカギ及びパパイアを、母島南崎でギンネム等を実施した。	[林 2]の中・長期計画に基づき、 ○ 薬剤注入等によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ等の駆除を、父島東部(約 8ha)、兄島(約 24ha)、東島(約 14ha)母島(石門で約 1ha)、弟島(約 8ha)で予定。 また、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を父島、兄島、弟島、母島(石門、南崎)、で実施予定。 ○ 25 年度以降の駆除予定地である兄島(約 11ha)、弟島(約 20ha)、向島(約 2ha)、で外来植物の分布調査及び事前モニタリング調査を実施予定。	「保全管理委員会」で事業計画等を承認。 「固有生態系修復事業検討委員会」で具体的駆除の進め方等を検討。

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
その他外来植物、普及啓発等	林 4	外来植物駆除事業 影響調査-シロアリ対策-	父島・母島			○外来植物の駆除は、小笠原固有の生態系を保護・保全するための重要な作業である。一方、駆除木は、シロアリの餌木となり、生息密度が高まり、ひいては村民の生活への影響が懸念されている。 これらのことから、今後の外来植物駆除事業に伴うシロアリ対策の指針を検討するため、国有林内のシロアリの生息密度等の調査を実施する予定。	今後検討	応札なしにつき本年度中止	24年度の委託調査を予定	
	林 5	小笠原原生植生回復ボランティア	母島	ー	(共催者の小笠原母島観光協会と協議し、実施を見送った。)	○現地の状況を確認し、アカギの抜き取り等を実施。		○母島桑の木山において、外来植物（アカギ等）の抜き取り等を実施。(実施日 23.11.10 参加者内地 18 人、現地 4 人参加)	○23 年度に引き続き実施予定	
	林 6	外来植物駆除作業体験への協力等	南島、父島等	○小笠原中学校の駆除体験活動等に協力した。	○次の外来植物の駆除活動を実施するにあたり、事前レクチャー及び安全指導を実施した。 ①小笠原中学校の南島におけるムラサキノキビ等の駆除作業体験を 10 月 21 日に開催し(都立ジャ、野生研と協働)、地元教員 4 名、生徒 21 名(1 年生)が参加して、外来植物を駆除した。 ②小笠原中学校の東平アカガシラカラスバトサンクチュアリーにおけるアカギ等の駆除作業体験を 10 月 28 日に開催し(小笠原自然観察指導員連絡会と協働)、地元教員 4 名、生徒 21 名(1 年生)が参加した。 ③小笠原高校の兄島におけるランタナの駆除活動を、7 月 26 日に開催し(野生研・固有生態系の修復事業の受託者と協働)、地元教員 8 名、生徒 39 名が参加して、外来植物の駆除した。 ④父島焼場海岸等において、モクモウ、アカギ等の駆除作業体験を、8 月 27 日～9 月 4 日に開催し(小笠原自然観察指導員連絡会及び野生研と協働)、東京農業大学ボランティア部学生 34 名・教授 1 名が参加した。駆除木は、歩道修繕の材料として有効活用を図るとともに駆除後のモニタリングを継続実施して	○必要に応じ協力または継続		○小笠原中学校 ・南島において外来植物（ムラサキノキビ等）の抜き取り作業を実施(実施日 23.10.18 外生徒 11 人・教員 4 人参加) ・父島東平サンクチュアリー内で、外来植物（アカギ等）の駆除作業を実施（実施日 23.10.25 生徒 22 人・教員 8 人参加） ○小笠原高校 ・兄島で外来植物（ランタナ等）の駆除作業を実施（実施日 23.11.19 生徒 20 人・教員 4 人参加） ○父島の国有林内で、外来植物（アカギ、モクマオウ等）の駆除作業を実施(実施日 3 月 8 日～11 日実施予定)	○23 年度に引き続き実施予定	

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
					いる。 その他、小笠原自然観察指導員連絡会と協働で、父島において、8月 16 日にキバンジロウの駆除作業体験を、8 月 21 日にホナガソウの駆除作業体験を開催した。					
	林 7	地元 N P O と連携した外来植物駆除	父島等	○協定を締結した地元 N P O 等と協働・連携し、固有森林生態系の修復・保全のための外来種駆除や固有動植物の調査等を実施した。	○特定非営利活動法人小笠原野生生物研究会と締結した村民の森(父島)において、モクマオウ等の薬剤注入、ランタナ等の抜き取り等を実施した。 ○小笠原自然観察指導員連絡会と締結したハトの森(父島)において、駆除予定のモクマオウ等の確認、アカガンラカラスバトの繁殖状況の調査等を実施した。 ○特定非営利活動法人小笠原クラブと締結した西島の固有森林生態系の修復と保全の森において、土壌水分量の調査や陸産貝類のモニタリングのコードラートの設置、トンボ池の設置等を行った。	○平成 23 年 6 月に特定非営利活動法人小笠原自然文化研究所と東島の約 26ha について、協定を締結した。 ○協定を締結した 4 つの地元 N P O 等と協働・連携し、固有森林生態系の修復・保全のための外来種駆除や固有動植物の調査等を実施。		○村民の森(NP0 法人小笠原野生生物研究所) ・会員によるムニンノボタン植栽地の下刈り作業を実施 ・会員及び島民を対象に植物観察会を実施。 ○ハトの森林(小笠原自然観察指導員連絡会) ・区域内の食性状況事前調査 ○西島の固有森林生態系の修復と保全の森(小笠原クラブ) ・トンボ池のメンテナンス及びモニタリング ○東島森林性海鳥の地(NP0 小笠原自然文化研究所) ・東島全体の海鳥生息地の現況把握、外来種駆除の実施方法の検討 ・セグロミズナギドリの営巣地の調査設計 ・森林内営巣センサス調査区域ノ設置と営巣状況記録	○各事業とも、23 年度に引き続き実施予定。	「保安全管理委員会」で活動状況等を検討
	林 8	ノネコ	父島	○ノネコの緊急捕獲を実施した。	○父島東平において、ノネコの緊急捕獲を実施した。 捕獲したネコは小笠原ネコに関する連絡会協力のもと東京都獣医師会へ搬送した。	○必要により実施		○小笠原ネコに関する連絡会議と連携し実施。 参考：父島山部での捕獲数 33 匹(内地への搬出数 35 匹(2 匹は出産増)	○23 年度に引き続き連絡会議と連携し実施予定。	

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業進捗		
固有種等	林 9	希少野生動植物種の保護管理等	父島・母島	○希少野生動植物種の保護・保全を実施した。	○種の保存法に基づく政令指定されたアカガシラカラスバト等 4 種、ムニンツツジ等 12 種、オガサワラシジミ等 5 種を対象に自然保護管理員による巡視を実施した。 ○アカガシラカラスバト等野鳥の水場を確保するため母島に人工水場を設置し、清掃、水の補給を地元協力者により年間 36 回実施した。 ○入り込み者への普及・啓発のためグリーン・サポート・スタッフによる巡視、啓発用のチラシの配布（約 1,400 枚）を行った。	○希少野生動植物種の保護・保全を実施。	○巡視による生息状況確認 ① 鳥類 メグロ：ラインセンサス、アカガシラカラスバト等 3 種：生息状況 ③ 植物 ムニンツツジ等 12 種：開花状況、枯損・折損等 ④ 昆虫 オガサワラシジミ等 5 種：生息状況 ⑤ ほ乳類 オガサワラオオコウモリ：生息状況	○自然保護管理員（委託）により、父島、母島の国有林全域で巡視を実施し、希少動植物の保護・保全を図った。 鳥類、植物、昆虫類、ほ乳類等の個体について観察、記録を実施した。	○過去の巡視記録等について、データベース化を実施。	「保全管理委員会」で検討
	林 10	希少野生動植物種保護管理対策調査	母島、父島	○アカガシラカラスバトの保護対策に資するため足輪装着並びにアカガシラカラスバト及びオガサワラカワヒワ保護管理対策調査（母島、向島、姉島、妹島及び姪島）を実施した。	○アカガシラカラスバトへの足輪の装着はできなかった。アカガシラカラスバト及びオガサワラカワヒワの生息状況等の調査を母島及び向島、姉島、妹島、姪島で 23 日間実施した。 ○オガサワラカワヒワの個体群動態を明らかにするため向島等において足輪の装着を 3 月に実施した。	○アカガシラカラスバト及びオガサワラカワヒワ保護管理対策調査を実施予定。 ○アカガシラカラスバトの生息環境等の調査を実施。	① オガサワラカワヒワ：生息状況（足輪装着、生息調査：平島を除く母島列島） ③ アカガシラカラスバト：センサーカメラによる出現状況（母島） ③ アカガシラカラスバトの生息環境（父島東平）	○母島属島（向島、姉島、妹島、姪島）において、個体識別のための足輪装着を実施し、47 羽に装着。 ○母島石門において、センサーカメラ（20 台）を設置し、出現状況を確認した。 ○サンクチュアリーの立体的林分構造を解析、バトの営巣地や繁殖地となり得る地域の推定等を実施。また、PR 用ビデオを作製。	○アカガシラカラスバトを主体に実施し、カワラヒワについても、引き続き実施予定。	希少野生動植物種保護管理対策調査委員会で検討
	林 11	父島アカガシラカラスバトサンクチュアリーの整備	父島	○アカガシラカラスバトの生息環境の維持修繕、保護等を実施した。	地元 NGO 等の協力を得て、 ○リュウキュウマツ等外来植物の駆除を実施した。 ○利用ルールにより、アカガシラカラスバトを保護した。 ○利用者がルートを外れないように木道の整備を実施した。	○アカガシラカラスバトの生息環境の維持修繕、保護等を実施。		○サンクチュアリー内の生態系維持作業（木道整備）を実施。 ○生態系修復のための、外来植物（リュウキュウマツ）の駆除を実施。 ○プラナリア対策として、入口に、酢スプレーを設置。	○23 年度に引き続き実施予定。	「保全管理委員会」で検討
その他	林 12	小笠原諸島における森林生態系保全管理技術事業	兄島等	○小笠原諸島の乾性低木林を対象として、侵略的外来種と在来種の種間相互作用に着目した戦略的な外来種対策を含む新たな森林生態系保全管理技術のあり方を検証するため、兄島でのモニタリング調査等を実施した。	○兄島台地上の乾性低木林に調査区を設定。（比較対象として、父島の乾性低木林にも調査区を設定。） ○広域調査区において、植生調査、植物相調査、動物調査（鳥類、昆虫類、陸産貝類、陸棲プラナリア）を実施。 ○詳細調査区（広域調査区内に設置）において、植生調査、植物個体群調査（ウラジオコムラサキ、コヘナレン、マツバシバ等）、動物調査（クマシミ、オガサワラハミョウ、陸産貝類）を実施。 ○モニタリング調査結果等を踏まえ、兄島における種間関係図の更新案の作成、将来予測等を行った。	○小笠原諸島の乾性低木林を対象として、侵略的外来種と在来種の種間相互作用に着目した戦略的な外来種対策を含む新たな森林生態系保全管理技術のあり方を検証するため、昨年度に引き続き兄島でのモニタリング調査等を実施。	平成 22 年度と同じ調査区において、 ○広域調査区において、植生調査、植物相調査、動物調査（鳥類、昆虫類、陸産貝類、陸棲プラナリア）を実施。 ○詳細調査区（広域調査区内に設置）において、植生調査、植物個体群調査（ウラジオコムラサキ、コヘナレン、マツバシバ等）、動物調査（オガサワラハミョウ、陸産貝類）を実施。	○兄島中央部に調査区、父島に対象区（100m×100m）をそれぞれ設置し、外来植物駆除後の植生等のモニタリングを実施。	○23 年度に引き続き実施予定。	「種間相互作用ワーキンググループ」において検討

※林 12 以外は、関東森林管理局にて実施

■実施機関：東京都

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果		
ノヤギ	都 1	兄島・弟島植生回復事業	兄島	①今年中の根絶を目指して排除作業を継続 ②モニタリング調査の継続 排除計画策定後、排除作業に着手	①ノヤギ7頭を排除（すべて銃器）。生息は確認されなくなり、ほぼ根絶したと見られる。 ②継続して調査を実施。モクマオウの増加が見られた。	①ノヤギ分断柵、植物保護柵撤去 ②ノヤギ残存個体の確認や、植生についてモニタリング調査を継続 ①排除作業を継続（上半期実績 銃器 50 頭、追い込み 109 頭） ②ノヤギ生息数、植生についてモニタリング調査を継続	○兄島(継続) ・植生調査（6 箇所コドラート） ○弟島(継続) ・ノヤギ生息状況（痕跡調査） ・実生植物調査（オガサワラグワ） ・外来植物調査（モクマオウ、ギンネム） ・植生調査（3 箇所コドラート） ○父島 ・ノヤギ生息状況(定点観察、船上・陸上カウント)(継続) ・オガサワラノスリ生息状況(船上・定点観察) ・植生調査(53 箇所ポイントコドラート、25 箇所定点写真観察)	・兄島に設置した工作物は全て撤去完了 ・弟島のノヤギ生息は確認できず根絶したと考えられる。今後の兄島・弟島モニタリングは3～5年毎に実施。 ・父島のノヤギ排除頭数 銃器 452 頭 追い込み 172 頭 わな 63 頭 合計 687 頭 (平成 24 年 1 月末現在、環境省、東京都、小笠原村)	①父島のノヤギ排除作業を継続実施。 ②父島のノヤギ生息数、植生等についてモニタリング調査を継続実施	『弟島・兄島ノヤギ排除検討委員会』にて検討 『父島ノヤギ排除検討委員会』にて検討
			弟島							
			父島							
プラナリア	都 2	都レンジャーの配置	父島 母島 属島	①父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発、利用者指導の継続。	①父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発や利用者指導を継続実施。	継続して実施する		父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発や利用者指導を継続実施。	継続して実施 平成 24 年度より 7 名体制に強化（父島 4 名、母島 3 名）	都レンジャー 父島 3 名 母島 3 名
アカギ・モクマオウ・リュウキュウマツ	都 3	都有地外来植物対策事業	父島			国有林での対策状況にあわせ、対策が必要とされるエリアの都有地においてアカギ等の駆除作業を行う。手法については薬剤注入など国有林での事業に合わせる。	・植生調査（都有地） ・農薬残留調査（都有地）	・父島の都有地における駆除計画を策定。 ・ノヤギ減少に伴う拡散の恐れがあるギンネムについて、父島の中山峠、巽崎、兄島滝之浦にて緊急的に試行駆除を実施。	・父島の都有地で外来植物の駆除作業を実施。（東平・旭山周辺の国有林隣接地） ・ノヤギ減少に伴う拡散の恐れがあるギンネムについて、父島の中山峠、巽崎、鳥山、兄島滝之浦にて試行駆除。	「父島外来植物対策検討委員会」にて検討
ギンネム、ヤダケ、その他外来植物	都 4	聟島列島植生回復モニタリング	聟島 媒島 聟島	①継続してモニタリング調査を実施 ②ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続 2.7ha、新規 0.04ha 実施（同一箇所では 3 カ年は駆除作業を継続）	①継続して、外来種生育状況、海鳥類、昆虫類、陸産貝類のモニタリング調査を実施 特段の変化は見られない。 ②ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続 3.1ha、新規 0.002ha 実施	①継続してモニタリング調査を実施 ②ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続 2.01ha 実施（同一箇所では最低 3 カ年は駆除作業を継続）	①関連 ・海鳥生息状況(嫁島、媒島、聟島) ・昆虫類生息状況(聟島、媒島:インベントリー、ライトトラップ、マレーズトラップ) ・陸産貝類生息状況(聟島、媒島)(隔年) ・残存林の拡大縮小状況(聟島、媒島)(毎年～数年間隔) ・植物群落(聟島 1 箇所、媒島 5 箇所、嫁島 1 箇所)(数年間隔) ・海底環境(媒島袋港)(隔年) ・外来植物(分布(適宜)、嫁島ヤダケ(数年間隔)) ②関連 ・ギンネム分布状況、駆除箇所植生回復状況 ・陸産貝類事業影響モニタリング(聟島/1 地点/50m トランゼクト)(継続)	②ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続して実施(3.1ha)	①継続してモニタリング調査を実施 ②ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続実施	「小笠原国立公園媒島・聟島植生復元測量調査・設計検討委員会」において検討
	都 5	媒島植生回復事業	媒島	①ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続 4.1ha、	①ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続 3.1ha、新規 2.5ha	①ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続 4.55ha 実施	①関連 ・陸産貝類影響モニタリング(媒島/3	①ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続して実施	①ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続実施	「小笠原国立公園媒島・聟島植生復元測量

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果		
				新規 2ha 実施 (同一箇所では 3 カ年は駆除作業を継続) ②引き続き、ダム設置、のり切工、侵食防止シート工や仮設モノレールの設置等を行う。	実施	(同一箇所では最低 3 カ年は駆除作業を継続) ③ 引き続き、ダム設置、のり切工、侵食防止シート工や仮設モノレールの設置等を行う。	地点/50m トランゼクト(継続) ・ギンネム分布状況、駆除箇所植生回復状況(媒島) ・タケ・ササ類(不定期)	(7.7ha) ② ダム 1 基設置、芝筋等緑化工 150 m 試行。	② 引き続き、ダム設置、のり切工、侵食防止シート工や仮設モノレールの設置等を行う。	調査・設計検討委員会」において検討
	都 6	南島植生回復事業	南島	○継続的な事業実施 侵略的な外来種の排除 (シンクリノイガ等の外来草本及びモクマオウ、ガジュマル等の外来木本の排除を実施、ネズミ排除を検討)	○シンクリノイガ、コマツヨイグサ、オオバナセンダングサ及びアレチノギク等の除去を 1 月 31 日現在 25 回実施し、除去量 1570 kg (90 ㍻ゴミ袋で 292 袋)。 ○南島に生育する外来木本は全て排除。(モクマオウ 13 本、ガジュマル 1 本、シマグワ 2 本)	○継続的な事業実施 侵略的な外来種の排除 (シンクリノイガ等の外来草本及びモクマオウ、ガジュマル等の外来木本、ネズミ排除)		・シンクリノイガ、オオバナセンダングサ等の外来草本の除去を 38 回実施し、除去量 3361 kg (90 ㍻ゴミ袋で 475 袋)。平成 24 年 1 月末現在 ・南島に生育する外来木本を全て排除。(モクマオウ 2 本、ガジュマル 2 本、シマグワ 1 本)	侵略的な外来植物の排除を継続実施。 (シンクリノイガ等の外来草本及びモクマオウ、ガジュマル等の外来木本)	地元 NPO においても関連機関(小笠原総合事務所国有林課、小笠原村)の協力のもと外来種駆除ボランティアを実施している。
		南島植生回復調査	南島	①ネズミ類生息状況の事前調査実施 ②駆除計画案の作成	①密度調査、食性調査、繁殖期調査などを実施した ②駆除計画案では、ダイファシノン製剤の手撒き散布(10kg/3 回)、1 月に実施とした。	①事前調査(ネズミ生息状況、殺鼠剤喫食性、生態系モニタリング) ②駆除計画決定、駆除実施	・外来ネズミ生息状況(継続) ・生態系モニタリング(鳥類、甲殻類、植生景観)(年 1 回、継続)	・1 月にダイファシノン系殺鼠剤散布(計 3 回)を実施	ネズミ類生息状況や生態系モニタリング(鳥類、甲殻類、植生景観等)を継続して実施。	
	都 7	南島自然環境モニタリング	南島	○モニタリングの継続。	○微地形、植生、気象観測、外来植物分布、クマネズミ生息、海鳥類、利用状況、訪花昆虫等の調査を実施。	○モニタリングの継続。	微地形、植生、気象観測、外来植物分布、クマネズミ生息、海鳥類、利用状況、訪花昆虫等(全域)	・大きな変化は見られない(12 月末時点)	○モニタリングの継続。	『南島自然環境モニタリング調査検討委員会』にて検討
アカガシラカラスバト	都 8	アカガシラカラスバト保護増殖事業(域外保全)	内地	継続して保護増殖を実施	26 羽飼育(上野 20、多摩 6)。産卵数 21、4 羽孵化、4 羽成育。	継続して保護増殖を実施		29 羽飼育(上野 24、多摩 5)。産卵数 46、6 羽孵化、4 羽成育。	継続して保護増殖を実施	アカガシラカラスバト保護増殖分科会にて検討
	都 9	アカガシラカラスバト生息調査	火山列島	北硫黄島において生息調査を予定(6 月)	北硫黄島において生息調査を実施(6 月) 1 羽を捕獲、足環付け、DNA サンプル採取	東北地方太平洋沖地震の余震による津波等の影響を考慮し、今年度の調査は中止。	アカガシラカラスバト オガサワラオオコウモリ	・東北地方太平洋沖地震の余震による津波等の影響を考慮し、今年度の調査は中止。	・北硫黄島において生息調査を予定	〃
オガサワラシジミ	都 10	オガサワラシジミ保護増殖事業(域外保全)	内地	継続して保護増殖を実施し、飼育繁殖技術の確立を目指す。	搬入した卵より 47 卵孵化(第 2 世代)、33 匹が羽化。 このうち 1 ペアの交尾に成功。交尾♀が 213 卵産卵し、128 卵孵化(第 3 世代)、40 匹羽化。第 3 世代での交尾は成功せず。個体の死亡をもって飼育は終了。	継続して保護増殖を実施し、飼育繁殖技術の確立を目指す。		5 月 ♀ 1 捕獲、採卵後放蝶 採卵数 82 孵化数 67 羽化数 33 交尾は成功せず 9 月 7 日の個体の死亡をもって飼育終了。	継続して保護増殖を実施し、飼育繁殖技術の確立を目指す。	「小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議」にて検討
	都 11	オガサワラシジミ保全事業	母島			都有地において、外来種を除去や食餌木の植栽等により、生育環境の改善を実施	対象地の自然環境調査を実施し、希少動植物への影響がないことを確認。対象地周辺の食餌木調査。	・対象地における外来植物駆除と整地を実施。周辺に食餌木の存在を確認。	継続して実施	〃
オガサワラオオコウモリ	都 12	オガサワラオオコウモリ保全事業	父島			都有地において、オガサワラオオコウモリの利用状況や管理手法について調査・検討を実施	対象地での飛来調査、植生調査を実施。	・対象地の一部について食痕を確認。	継続して実施	

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果		
アホウドリ類	都 13	アホウドリ類繁殖状況調査	聟島列島 父島列島 母島列島	継続して繁殖状況調査	父島列島で、初めてクロアシアホウドリの繁殖を確認。4 羽を確認。 聟島列島でクロアシアホウドリ 915 羽、コアホウドリ 14 羽を確認 母島列島でクロアシアホウドリ 9 羽を確認	繁殖状況調査の実施	アホウドリ類 父島列島：孫島 聟島列島：全域 母島列島：姉島属島・妹島属島	父島列島でクロアシアホウドリ 6 羽を確認。 聟島列島でクロアシアホウドリ 852 羽、コアホウドリ 12 羽を確認 母島列島でクロアシアホウドリ 6 羽を確認	継続して実施 聟島列島でアホウドリの調査に着手	地元 NPO（小笠原自然文化研究所）と連携して実施。

■実施機関：小笠原村

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果		
シンクリ ノイガ	村 1	外来種啓発事業	南島	○島民に対する外来種啓発事業 島民への普及啓発を目的とした外来種除去作業	H22. 9. 15（水） 南島で実施 島民ボランティア 14名（募集15名） 除去量：220kg	属島において3回実施予定		観光船が多数寄港することから、3月実施予定を4月以降に延期。	属島等において3回実施予定	
オガサワ オオコウ モリ	村 2	農作物被害対策事業	父島	・硬質ネットを使用したオオコウモリ防除の実証実験 ・被害予防システムの開発	実験継続 平成 22 年 9 月 24 日台風 12 号により防除施設モデルが被害を受けた	台風等の強風にも耐える規格とするため、防除施設モデルの仕様見直し及び実証実験		仕様を見直した防除施設モデルを農地に設置し、食害防除効果及び耐候・耐久性について確認を行った。	硬質樹脂ネットを使用した食害防除施設を設置を希望する者に対し、施設設置に要する資材を無償貸与する事業を実施する。	

■実施機関：民間・共同・その他

事業項目				平成 22 年度		平成 23 年度			平成 24 年度予定	課題・備考
種名	No.	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	モニタリング項目	事業結果		
ネコ	民 1	緊急捕獲事業、平成 21 年度より山域捕獲事業	父島・母島・弟島	緊急捕獲事業、平成 21 年度より山域捕獲事業		農地での捕獲を村役場で実施		5 月～7 月にかけて、農地でのネコ捕獲を村役場で実施。	ノネコの状況等により、実施。	（小笠原のネコに関する連絡会議』にて検討）
ネコ	民 2	適正飼養推進事業	父島・母島	○村役場より、東京都獣医師会に飼いネコの適正飼養やマイクロチップ装着推進に関するため派遣同留津診療団を要請（小笠原村事業に小笠原のネコに関する連絡会議、島民飼い主の会等が協力）し実施。	派遣動物診療団により、父島・母島で計 75 頭のネコを診療し、このうち未装着なネコ 24 頭にマイクロチップを挿入した。父島・母島で計 64 頭のイヌを診療した。マイクロチップ挿入率は 66%を達成した。派遣獣医師による飼い主との懇談会を開催し、適正飼養の推進と野生動物保護の理解を図った。	22 年度と同規模で実施予定。更なるマイクロチップ挿入率の向上と適正飼養の推進を図る。 新規転入者への周知徹底を図る。		派遣動物診療団により、父島・母島で計 65 頭のネコを診療し、このうち未装着なネコ 10 頭にマイクロチップを挿入し、挿入率は 70%を達成した。 派遣獣医師による飼い主との懇談会を開催し、適正飼養の推進と野生動物保護の理解を図った。 また、獣医師との意見交換会、保育園等での幼児向け講演を実施した。	23 年度と同規模で実施予定。内容等は今後調整。	（小笠原のネコに関する連絡会議』にて検討）
アホウドリ類	民 3	アホウドリ類繁殖状況調査	聟島列島 父島列島 母島列島	継続して繁殖状況調査	父島列島で、初めてクロアシアホウドリの繁殖を確認。4 羽を確認。 聟島列島でクロアシアホウドリ 915 羽、コアホウドリ 14 羽を確認 母島列島でクロアシアホウドリ 9 羽を確認	繁殖状況調査の実施	アホウドリ類 父島列島：孫島 聟島列島：全域 母島列島：姉島属島・妹島属島	父島列島でクロアシアホウドリ 6 羽を確認。 聟島列島でクロアシアホウドリ 852 羽、コアホウドリ 12 羽を確認 母島列島でクロアシアホウドリ 6 羽を確認	継続して実施 聟島列島でアホウドリの調査に着手	地元 NPO（小笠原自然文化研究所）と連携して実施。

【実施機関】

- No.1 小笠原ネコに関する連絡会議（自然保護官事務所、小笠原総合事務所国有林課、支庁、村、村教委、NPO 小笠原自然文化研究所）、小笠原自然解説指導員連絡会、（社）東京都獣医師会が実施。
協力：島内獣医師、ボランティア（捕獲・飼育）、小笠原海運（株）、母島観光協会、関東地方環境事務所、東京都環境局
- No.2 （社）東京都獣医師会と小笠原ネコに関する連絡会議（自然保護官事務所、小笠原総合事務所国有林課、支庁、村、村教委、NPO 小笠原自然文化研究所）が実施。 協力：NPO どうぶつたちの病院。主な活動資金は（財）自然保護助成基金助成事業による。
- No.3 東京都小笠原支庁、NPO 小笠原自然文化研究所

Topographic map of Miyako Island, Iriomote Island, and surrounding waters. The map shows various geographical features and administrative boundaries. Key locations and regions are labeled:

- 夜明平・長崎地域 (Yamashirohira-Nagasaki Area)
- 東平・中央山地帯 (Hirahira-Chuoh Sanchi Belt)
- 南部地域 (Nanbu Area)
- H22 モクマウ・リュウキュウマツ 駆除【林 3、7】 (H22 Mokumau-Ryukyumatsu Removal [Forest 3, 7])
- H22 外来植物 駆除前調査【林 3】 (H22 Invasive Plant Removal Pre-survey [Forest 3])
- H22・23 リュウキュウマツ 駆除【林 3、11】 (H22-23 Ryukyumatsu Removal [Forest 3, 11])
- H23 オカサワラオウモリ【都 12】 (H23 Okasawaraoimori [City 12])
- ノヤギ【都 1】 (Nogagi [City 1])
- ノネコ・ノヤギ柵【環 1】 (Noneko-Nogagi Fence [Ring 1])
- プラナリア【環 9】 (Planaria [Ring 9])
- グリーンアノール【環 6】 (Green Anole [Ring 6])

A scale bar at the bottom indicates distances up to 2 km.

対策の方向性に示した保全対象

保全優先度が高い固有種及び希少種

上記以外の固有種及び希少種

在来種など

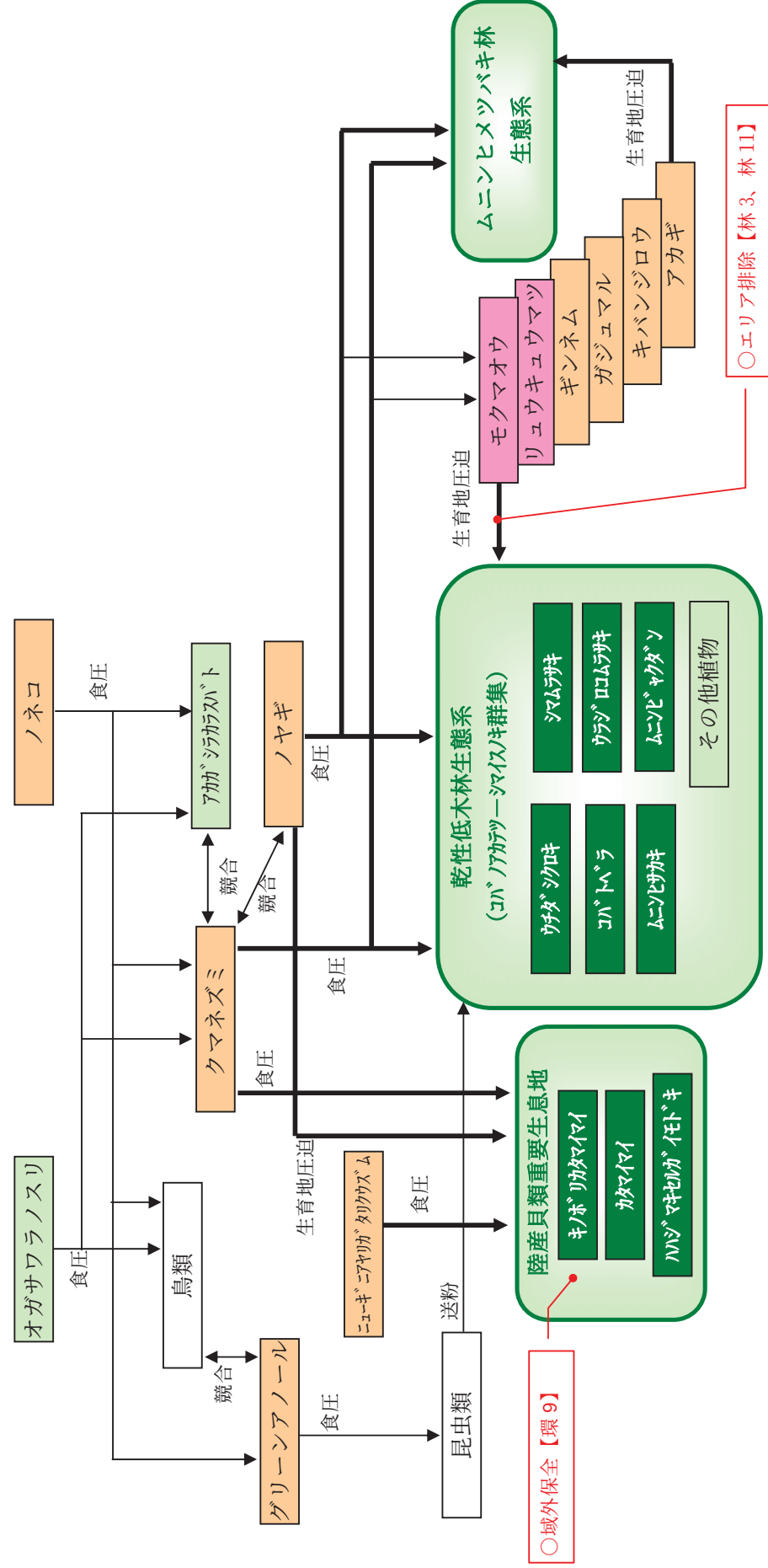
上記のうち〇に影響を及ぼす種間関係

関係性が明らかな種間関係

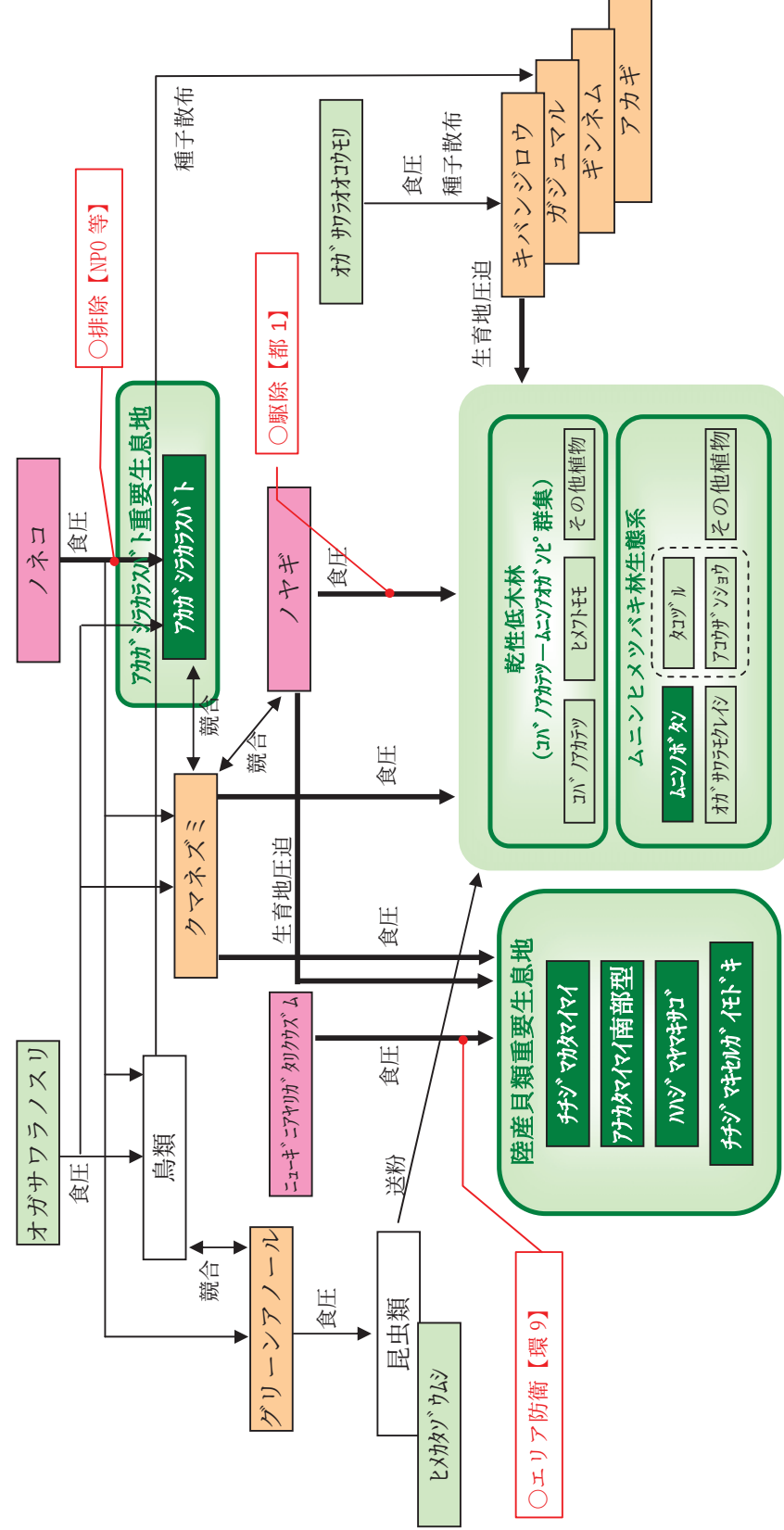
対策を実施している侵略的外来種

侵略的外来種

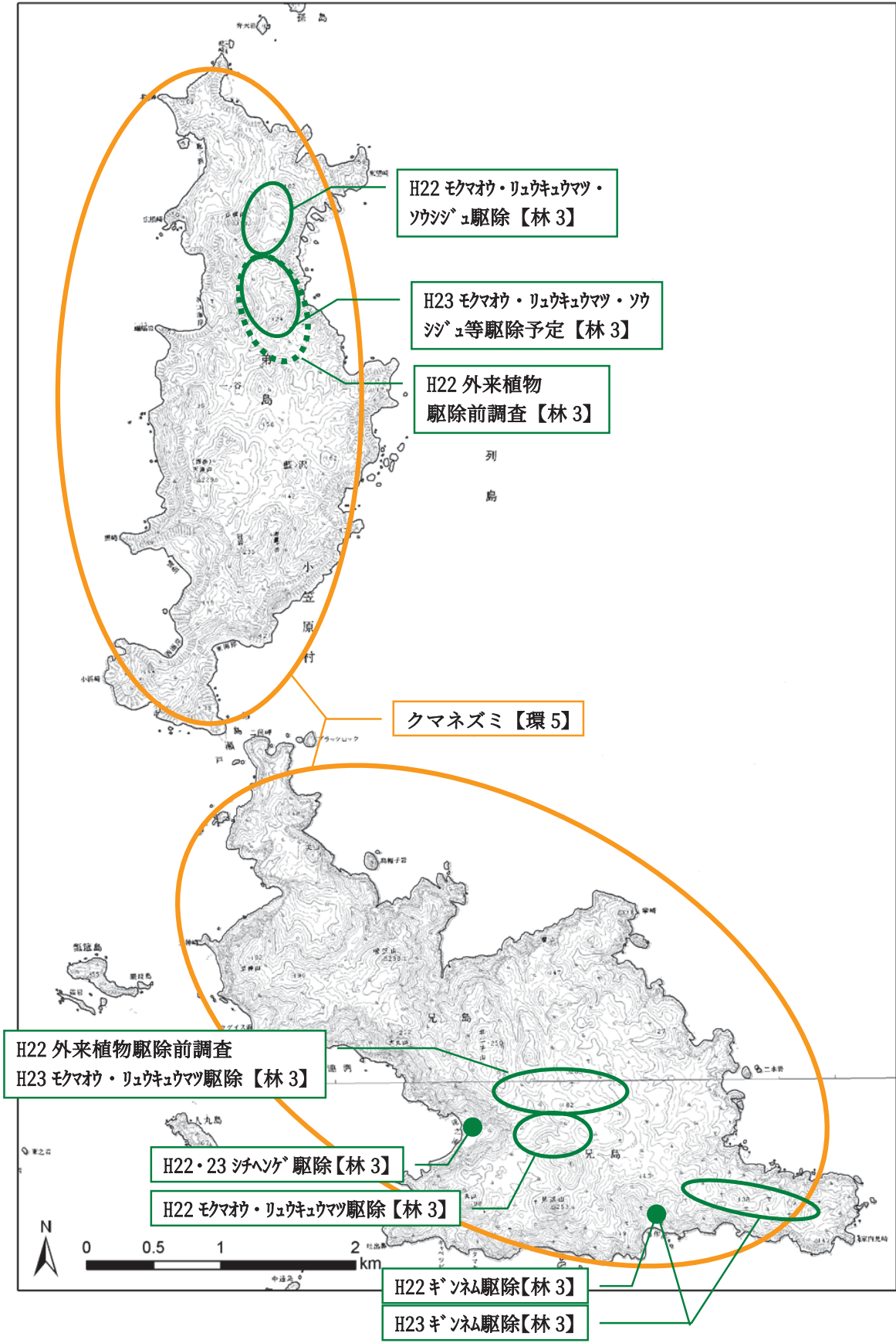
【参考図面】 父島〔夜明平・長崎地域〕における種間関係図



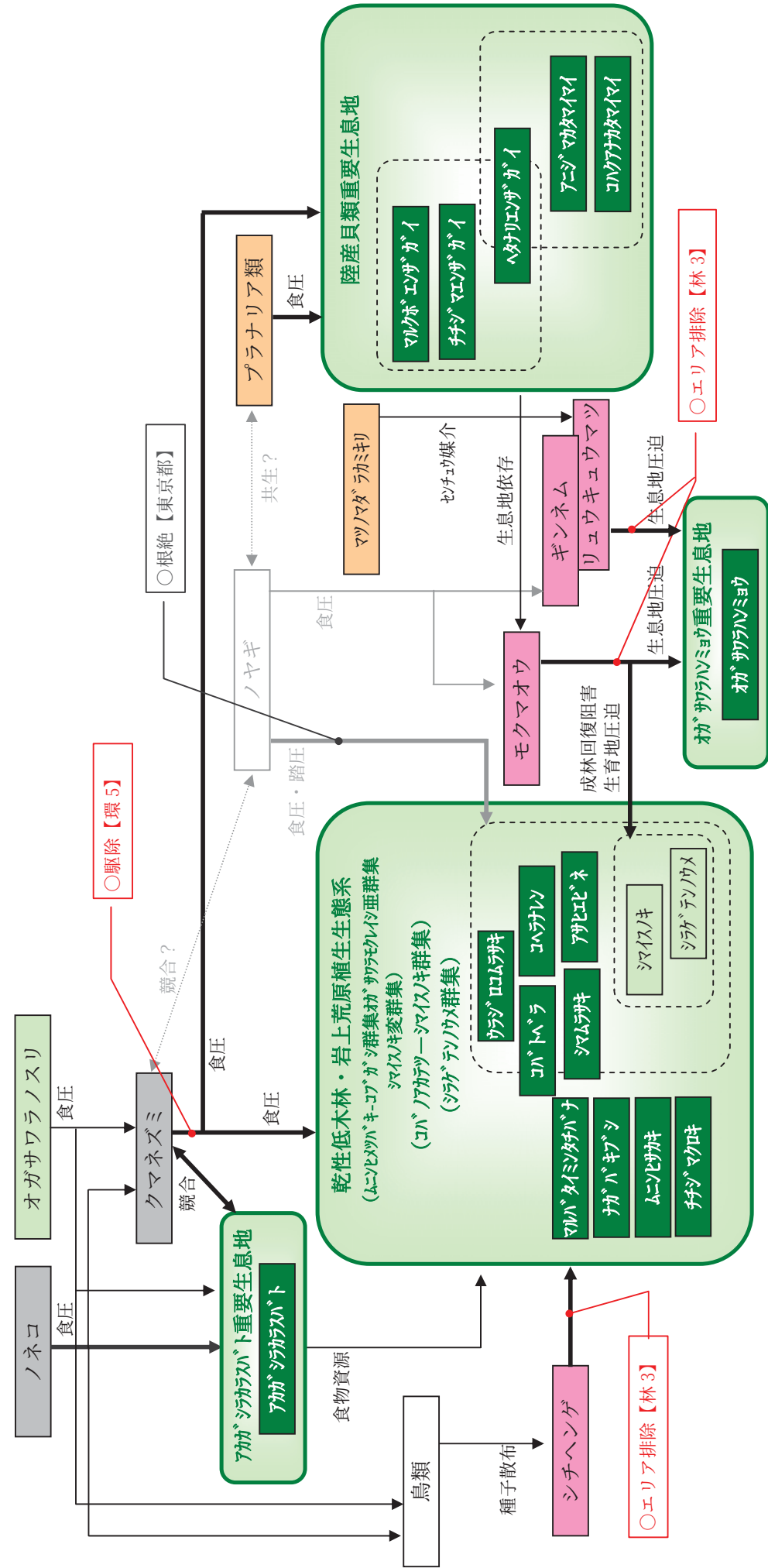
【参考図面】 父島〔南部地域〕における種間関係図



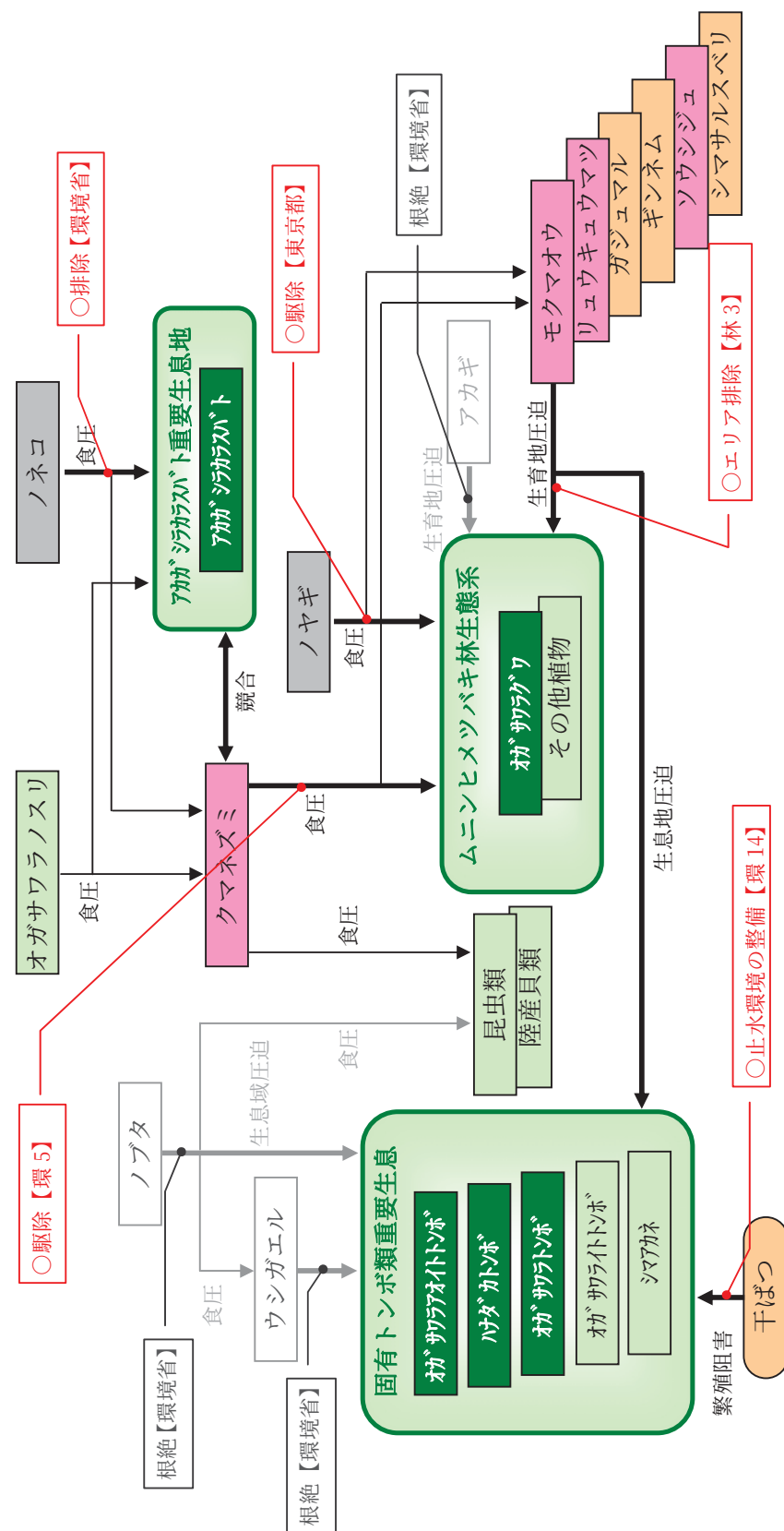
【参考図面】 兄島・弟島における事業実施状況



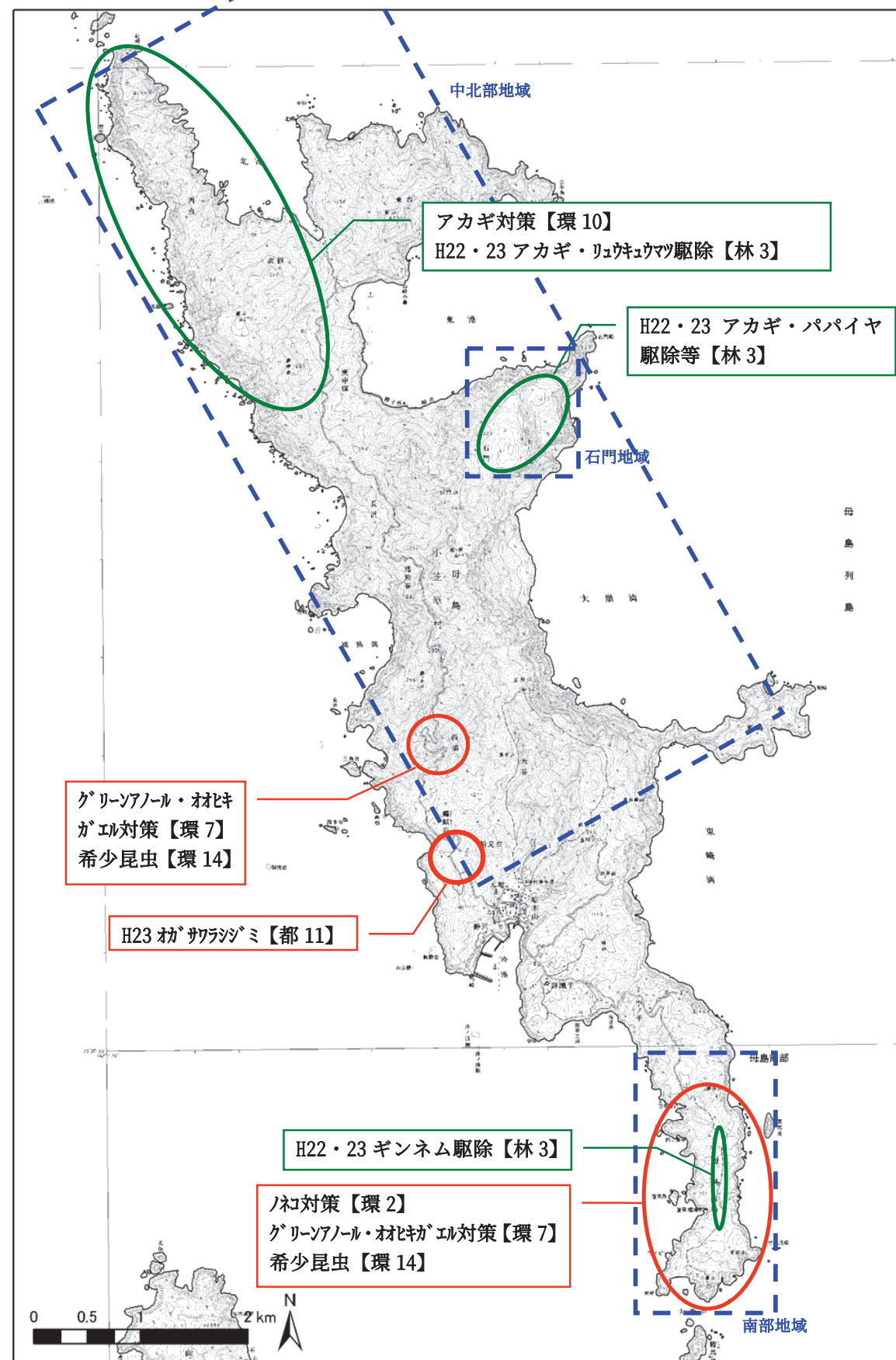
【参考図面】 兄島における種間関係図



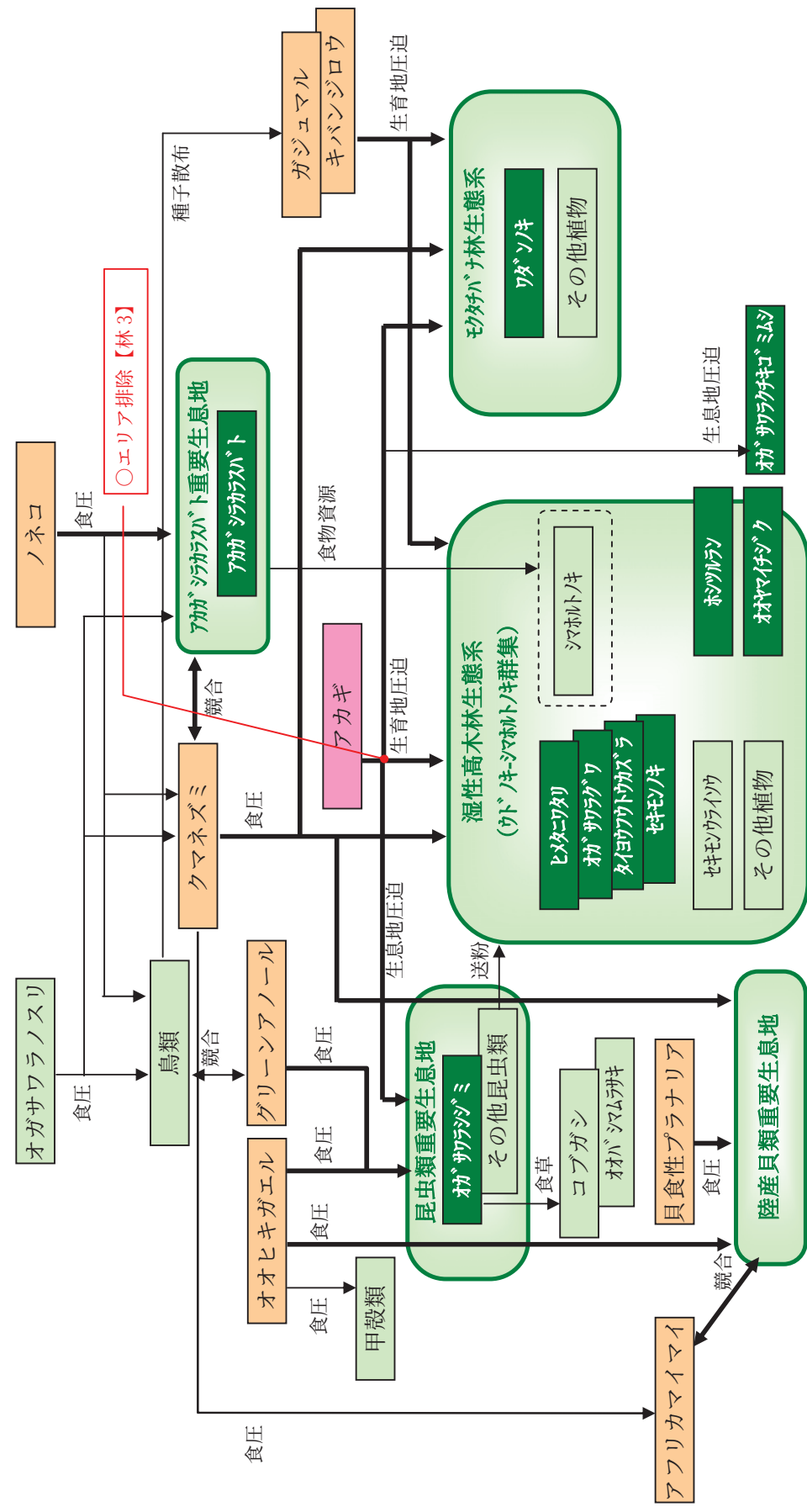
【参考図面】 弟島における種間関係図



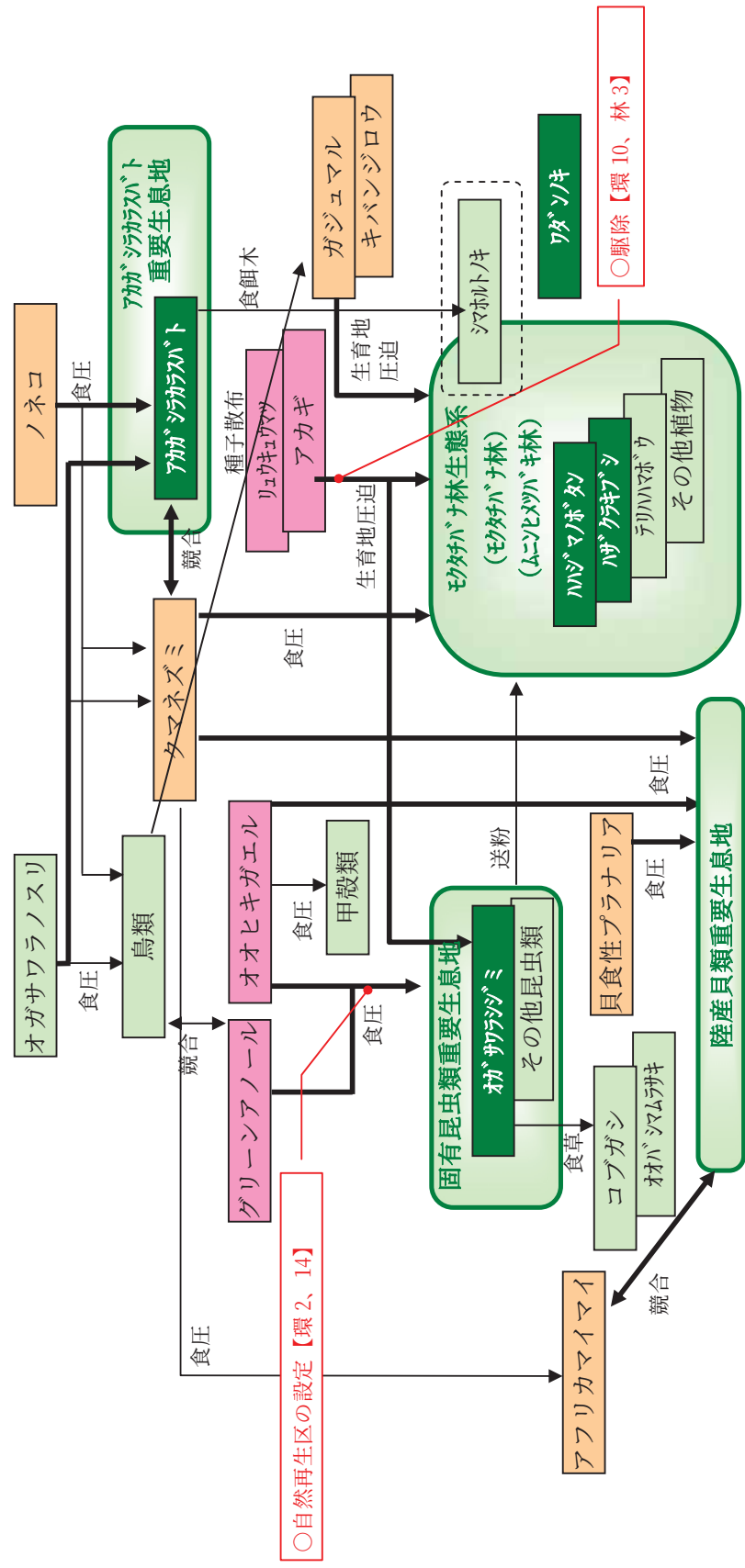
【参考図面】 母島における事業実施状況



参考図面 母島〔石門地域〕における種間関係図



【参考図面】 母島〔中北部地域〕における種間関係図



【参考図面】 母島〔南部地域〕における種間関係図

